

沙石集 五・六 （天和三年版）

椙山女学園大学デジタルライブラリー

椙山女学園大学図書館

石集

五六

七

ゆ名集卷第一

上

紫菫山房藏

阿波岐曾能蔵書

目錄

圓頓之學えんの者の鬼病きびょうとまぬらゆ事こと

圓頓之學えんの解げ之益えき乃事こと

學がく道どう之畜く類るいしやうりく事こと

慈心じしんよりの忍にん痛いた公こうまぬらくく事こと

學がく道どう之の然ぜん解げ事こと

學がく道どう乃の見けん解げ僻へき乃事こと

學がく道どう之の世よ間かん之の妙めう法ぽう事こと

學がく道どう之の蟻あ蠟ろう之の同どう養やう乃事こと

學がく道どう之の心しん乃事こと



91B1893

学道の義事と備候もの御事
学道の義事と備候もの御事
和奇の道徳の道理なり

源石集卷第八 上

圓頓の學者を鬼病と侮つる御事

中比あり山傍に日吉に去る事と新影と候事計り。
意も何に見えるもあらびにみえる事を新疫と候事。
神に異状異狀なる事を新疫と候事。天下一心の神に。
人が心をけりといふ事。山には学者といふ事は。
但山者に中に。我山には何もやうといふ事は。。
中國一心には何もあらびにみえる事を新疫と候事。
今の事は何もやうといふ事は。。疫神を
小わり名といふ事といふ事といふ事といふ事といふ事といふ事。

くろく、と云ぬ。ふんれ坊に於て入んとして。は
け傍圓へりつて。とて。山の名。妙も。好しく。そを
も。ば。水。あ。く。は。ま。を。心。と。と。め。て。

圓頓者初縁實相造法。即中。無不真實。般若
法界一念法界。一色。一香。無非中道。已界。及佛。界
衆山。衆。亦。然。陰。入。皆。如。無。苦。可。捨。無。明。塵。勞。即。是。善
提。無。集。可。斷。邊。非。皆。中。正。無。道。可。修。生。死。即。涅
槃。無。滅。可。證。無。苦。無。集。故。無。世。間。無。道。無。滅。故。無
出。世。間。純。上。實。相。實。相。外。更。無。別。法。法。性。寂。然。名
止。寂。而。常。照。名。觀。雖。言。初。後。無。二。無。別。是。名。圓。頓。止
觀。と。い。ふ。文。と。論。の。こ。も。て。思。辨。い。ふ。あ。も。を。つ。て。事

あ。こ。り。の。り。で。ま。く。は。社。へ。く。り。ま。り。て。け。り。と。し。て。し。ら。ふ。
ま。て。分。た。な。ご。事。と。い。ふ。後。と。て。思。辨。を。ま。り。ぬ。と。見
て。け。傍。の。後。山。者。れ。り。と。い。ふ。妙。妙。か。く。れ。り。と。ま。の。た。り
り。見。ゆ。り。は。つ。と。終。り。け。さ。む。神。意。を。ま。り。思。し
め。し。ら。う。め。れ。く。と。の。あ。さ。り。と。て。け。圓。へ。く。り。ま。り
思。ひ。ま。り。て。な。ご。く。山。を。け。り。て。け。り。と。し。て。し。ら。ふ。
天台大師。南岳大師。三。結。れ。止。觀。と。け。り。と。し。て。し。ら。ふ。
中。の。圓。頓。止。觀。の。妙。心。は。文。也。止。觀。は。才。の。事。と。し。て。し。ら。ふ。
名。の。解。け。け。け。文。也。と。し。て。し。ら。ふ。妙。妙。か。く。れ。り。と。ま。の。た。り
と。し。て。し。ら。ふ。妙。妙。か。く。れ。り。と。ま。の。た。り。と。し。て。し。ら。ふ。
と。し。て。し。ら。ふ。妙。妙。か。く。れ。り。と。ま。の。た。り。と。し。て。し。ら。ふ。

一。学解の方あること。世間の利益わくの
 うつらひのあり。法界等流の善法。眞善
 妙有れ文字。日光の毒瘡とす。藥王の病患と
 せよとす。災難のつら。除く業障必滅とす。
 心わらん人け文となす。ひてつら。心も補。心
 と觀とす。何本文を書ゆるあり。天台の学者者
 之れ口丹付。心孤。まをす。なく。まをす。
 益あり。涅槃。大涅槃。光明。心も衣生
 の毛孔より入て。菩提の縁となす。又。禁網
 經より一切の畜類とらん。時ハ。汝。是。言。生。發。菩。提
 心。と。云。下。と。説。く。下。有。情。た。も。し。領。解。を。く
 すと。法。言。毛。孔。より入て。を。く。が。さ。ひ。の。因。縁。と。な。る
 と。云。り。又。是。德。云。泥。木。の。教。像。大。智。を。も。と。は。り。
 佛。の。經。卷。ハ。法。界。より。た。か。は。と。ま。り。心。も。さ。り。心
 智。より。高。於。像。と。ま。り。法。界。と。ま。り。と。す。と。す。と。す。
 文字。より。わ。り。び。げ。ゆ。佛。像。と。ぬ。れ。お。の。づ。く。益
 と。は。經。を。か。じ。之。と。ま。り。罪。を。除。く。經。の。つ。ま。り。ま
 人。言。し。び。ひ。と。愛。患。れ。と。お。こ。え。ん。ら。り。つ。ま。り。ま
 佛。像。か。じ。之。と。す。世。間。の。文。字。と。ら。ん。ま。
 妄。慮。と。ま。え。ん。ら。り。向。く。ハ。經。を。と。か。ら。す。と。す。
 人。の。善。性。あり。無。性。あり。佛。縁。より。三。寶。の。境。り
 び。之。ハ。妙。用。の。つ。ま。り。と。す。無。縁。た。ら。六。塵。の。境。り

一。学解の方あること。世間の利益わくの
 うつらひのあり。法界等流の善法。眞善
 妙有れ文字。日光の毒瘡とす。藥王の病患と
 せよとす。災難のつら。除く業障必滅とす。
 心わらん人け文となす。ひてつら。心も補。心
 と觀とす。何本文を書ゆるあり。天台の学者者
 之れ口丹付。心孤。まをす。なく。まをす。
 益あり。涅槃。大涅槃。光明。心も衣生
 の毛孔より入て。菩提の縁となす。又。禁網
 經より一切の畜類とらん。時ハ。汝。是。言。生。發。菩。提
 心。と。云。下。と。説。く。下。有。情。た。も。し。領。解。を。く
 すと。法。言。毛。孔。より入て。を。く。が。さ。ひ。の。因。縁。と。な。る
 と。云。り。又。是。德。云。泥。木。の。教。像。大。智。を。も。と。は。り。
 佛。の。經。卷。ハ。法。界。より。た。か。は。と。ま。り。心。も。さ。り。心
 智。より。高。於。像。と。ま。り。法。界。と。ま。り。と。す。と。す。と。す。
 文字。より。わ。り。び。げ。ゆ。佛。像。と。ぬ。れ。お。の。づ。く。益
 と。は。經。を。か。じ。之。と。ま。り。罪。を。除。く。經。の。つ。ま。り。ま
 人。言。し。び。ひ。と。愛。患。れ。と。お。こ。え。ん。ら。り。つ。ま。り。ま
 佛。像。か。じ。之。と。す。世。間。の。文。字。と。ら。ん。ま。
 妄。慮。と。ま。え。ん。ら。り。向。く。ハ。經。を。と。か。ら。す。と。す。
 人。の。善。性。あり。無。性。あり。佛。縁。より。三。寶。の。境。り
 び。之。ハ。妙。用。の。つ。ま。り。と。す。無。縁。た。ら。六。塵。の。境。り

わすもろひなる母いふれゆる母と回ハ我信
解ゲもろ圓ま解げん此法ハ是母有りてあざむるこふ
とむくくみもを實珠じゆ此光くわう明めい赫くわく奕やくとて世界と
てと有り此母と有りて力ちからは有りぬまむ苦患くげん
屋やを海うみとつふそは光母映えいして鬼形きけいと凡まつ
ころもむれらゆり多天人てんじんのどく母は也なり花はなより
ぬまむ戒かい緩ゆるれゆ母は無な越こはあつとととも業ごう急きゆう
芥かい子し又また等とうれ佛ぶつ會えあつとつなりと得益とくえきヤやけ教けう
かろと一いつ戒かい急きゆう也なりと止し觀くわん定じやう慧えい凡ぼん修しゆ因いんなりと人
天てんの善ぜん熟じやくなりて佛ぶつ道だう入にるなり下くだりやなり

たり舍しか清じやうハ三億さんいふく及び及び心しんと著ちやく樂らくれ諸しよ天てんのちりひる
らざり一いつけ教けう有りとつの中なか意いハ業ごう戒かいハ急きゆうなり
して人天てんじん力ちからハ佛ぶつのあせありあひさつなりとひけ
ととつたりとつとつと解げん約やくなりとつとつ三さん無む八はつ難なん
入にるばお難なん解げん脱だつゆとつわさつゆとつとつ止し觀くわん
修行しゆぎやうハ方便はんべん二十にじふ又またおまは持ち戒かい清じやう淨じやうと宗しゆとと遺い教けう
經きやうハ若じやく無む淨じやう戒かい法ぽう吾ご切せつ德とく皆みな不ふ得とく生じやうと教けうとつ
戒かい約やく綱かうりぬまむ一切いっけつ凡ぼん生じやうとつわさつとつみとつなり
又また戒かい母ぼよりて定じやうとつ定じやうよりなり多ち業ごう急きゆうとつゆとつ
佛法ぶつぽうハ通つう相しやう修しゆ約やくハ漸ぜん次じ也なりけ學者がくしやハ圓えん解げん光くわう觀くわん
約やくあんと有りなりとつわさつとつわさつとつ執しやく人にんとつとつ異い六りく教けう

母をくこりりけりや。さうりかぐらお難へらぐくしを
そのゆき

学誼の畜養は生うく事

山！二人の学誼有りたるを。同法よて年齢も心操振
年がうけうるべ学同と一師以下まぐりひのこ
けさむ。解は見解も同。何ゆり付てもあつた。體
也。うりぬに。二人共く。く教く一室の同法まらる。義
かり。は。振舞へ。南東は生れを甲し。し。ひ。ま
し。を。あ。ん。ど。め。先。た。の。事。あ。く。た。ま。生。れ。と。あ
ど。は。ぐ。く。と。結。た。た。ひ。は。終。ぬ。二人他界し。く
後。あ。若。て。う。く。我。の。群。類。と。う。ま。り。の。下。り。生。れ。わ。ら。り

い群類とつよの考。うもあさひのこあ。流山に中
母希。は。有り。と。さ。り。か。ら。大。あ。り。て。目。鼻。の。目。鼻。も
あ。只。口。中。有。り。あ。い。ん。と。な。て。く。く。と。さ。り。こ。ま。さ。ま
佛法と。向。名。利。の。よ。め。あ。ま。学。し。後。天。降。論。し。て
或。ハ。瞋。恚。と。あ。り。或。ハ。怨。讎。と。治。ひ。憍。慢。勝。他。等。の
心。を。学。び。ま。さ。ま。高。執。の。う。ま。く。く。事。も。あ。り。行
解。の。ま。さ。や。う。け。る。事。も。あ。り。さ。う。ま。く。く。口。中。に
さ。り。け。さ。ま。も。智。恵。の。眼。も。あ。り。信。の。心。も。な。く
戒。は。足。も。あ。さ。ま。の。か。け。を。あ。り。さ。り。の。あ。ま。れ。ら。う
あ。そ。凡。佛。法。を。学。び。ま。り。あ。結。縁。を。編。む。遠。因。と
云。い。ぬ。わ。い。さ。れ。因。縁。を。は。わ。れ。む。あ。り。か。く。は。聚

沙為佛塔皆已成佛道と云かこく。當時の儀
 とくんと順攻の生所といふ。んふよまこひて利
 害有る。か離れん。善提のためは学せは天
 利益あり。名学の心利養は。学せは。大なる換
 害あり。さも世間お世なり。心へは。いさ
 善悪心より。信じて。業を。佛法と
 して。ま。ま。の。心。に。お。か。し。ま。る。は。佛。法。と。ま。る。
 ぬり。の。一。付。て。世。間。者。お。世。者。と。ま。る。下。の。心。を。お。か。し。ま。る。は。佛。法。と。ま。る。
 眞實は佛道と心す。解脱を。心す。心す。は
 お世者也。度世と心す。今生と。心す。は。佛。法。と。ま。る。
 と。以。て。名。利。の。あ。ら。は。し。め。て。利。養。恭。敬。は。貪。著。く

せん世間者也。たを。善法。は。呂律。お。ま。る。は。心。を。お。か。し。ま。る。
 申す。く。少。き。も。一。れ。細。子。と。い。は。れ。て。ま。を。奏。
 する。時。を。餘。乃。四。れ。言。は。し。め。ひ。う。て。ま。を。奏。
 乃。終。り。た。ひ。ま。ら。さ。ざ。り。た。く。ひ。ま。た。ま。り。て。あ。い。
 あり。は。く。く。く。く。世。間。者。も。仏。法。と。し。て。学。せ。れ。た。
 名。利。の。た。り。ま。ら。し。め。て。は。く。く。く。く。世。間。者。も。佛。法。と。し。て。学。せ。れ。た。
 た。ま。り。と。あ。り。て。ま。を。奏。する。時。を。餘。乃。四。れ。言。は。し。め。ひ。う。て。ま。を。奏。
 の。因。は。何。く。も。は。佛。法。即。世。間。と。な。る。ま。を。奏。する。時。を。餘。乃。四。れ。言。は。し。め。ひ。う。て。ま。を。奏。
 お。世。の。道。人。も。い。そ。う。道。具。衣。食。住。縁。は。不。費。財。を。心。
 た。ま。り。と。あ。り。て。ま。を。奏。する。時。を。餘。乃。四。れ。言。は。し。め。ひ。う。て。ま。を。奏。
 下。界。の。衆。生。も。い。そ。う。道。具。衣。食。住。縁。は。不。費。財。を。心。

受のうへにけ後とあひたまはく道行をぬき下し。
あつて生身とたまりて法身は慧命をまうく
くせんとあつて世間の治生産業皆佛法の
とぬく。道業をぬき下し。じうに道人戒を後
とまう。畜とまう。其の世間即佛法
也。まうくく六根淨の位にけ。治生産業實
相違替せぬと統ひた。佛法修行の公さうぬ
くくして六根の塵勞の心とまう。不取知足
の修行の機をたもらん。實相をまう。
道理をかうかん。例せば戒門とくく。端を
唯佛一人持淨戒と云て。佛はまう。眞の持戒も

人あり。又ゆきして云は。百の律儀をまう。うり
人あり。うり。不殺生戒。又婬戒と畫計たり。
不殺生とうり。たひら。十善戒と六十歩の程
たり。方お戒と云な。へて心へ。世間者お
世者の事。お戒とあひり。後聖教とくく。
文證あり。ゆり。仁王經は云。菩薩誅滅佛時。以善提
為煩惱。菩薩成佛時。以煩惱為菩提。守護經は云。或有
煩惱。欲與解脱。以為因緣。觀實體故。或有解脱。欲
與煩惱。以為因緣。生執著故。は文証要あり。意樂
善なり。時執著あり。て道と云。煩惱は。以て
る。解脱の因縁也。名利我相と心とまう。善の

祿官一人おじうひく。侍従とどたきけ。式部とどは
 治りてく侍従と云は侍綱及れ中一思ひしを侍
 侍従いさむる法器の者よりあつべ。式部の器量の
 者等通なりよけ侍と心付るけきと思ひく。祿
 官と呼てあつくとし入りまじ。祿官けしよしん
 由るゆとわつしんてしんて。式部の通しんを子通
 ありた。自利れ心して。人代為益ありしと者也。
 侍従の慈悲なるものよて我寺母任と傳しんもの。
 一進心よ任せらるもの百人母の傳まじり。又後よわ月
 一うひありと傳しんてしんて。ゆと云や思ひて後
 するん。不思議と云て。使者とゆ後房がりしんを
 可く。何事と云と問也けき。けあ三日重病なり
 するゆやと傳てゆりけら。げあろとろりあせ也
 心地たきうりて云くゆと云り。式部房れりしんつ
 ひと傳りてや。げあろとろり重病と云て。大
 事なりりしんて。終よ失よりり天物人。徳志
 ていし。慈悲ある人。あそりしんて。何れも。犯
 しんて。あつる善事とゆとわき。我相憍慢を人
 心。あつる我信黨と云ふゆ。んやと云く。是れや
 けり。大業れ者なりしんて。無所得とろり。方便と
 我。然の解脱の因縁あり。我相人相と云ふ。空
 無相の觀心れ用意。心と心。心。心。眞實の道人

可く。何事と云と問也けき。けあ三日重病なり
 するゆやと傳てゆりけら。げあろとろりあせ也
 心地たきうりて云くゆと云り。式部房れりしんつ
 ひと傳りてや。げあろとろり重病と云て。大
 事なりりしんて。終よ失よりり天物人。徳志
 ていし。慈悲ある人。あそりしんて。何れも。犯
 しんて。あつる善事とゆとわき。我相憍慢を人
 心。あつる我信黨と云ふゆ。んやと云く。是れや
 けり。大業れ者なりしんて。無所得とろり。方便と
 我。然の解脱の因縁あり。我相人相と云ふ。空
 無相の觀心れ用意。心と心。心。心。眞實の道人

れくつらなるべし。諸法は空と觀と。慈悲ある人
 今世後世佛道とす。あつる信仰とす。さきで
 智恵とす。あつるべし。自利の心かあり。ハ
 小乘と共し。利生の徳なり。空解の多や。世智
 あもは。あつる其益とす。あつる。慈悲の菩薩の體
 佛の心かあり。あつる。あつる。廣大の心かあり。あつる
 慈悲と名づく。たとへば。あつる。あつる。あつる。あつる
 同し。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる
 くあり。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる
 悲の心其境の口とす。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる
 法界の心とす。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる

あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる
 慈身の徳とす。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる
 是也とす。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる
 大慈の心是也とす。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる
 て體とす。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる
 あり。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる
 鹿野苑。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる
 釋迦菩薩の因なり。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる
 群鹿と領と。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる
 あり。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる
 て。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる
 命とす。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる

人天大會異口同音よ。南無佛法力人力なりや。

ふんごんごん心ハ仏心也同ひとごんとかめたり。ふんごんごん

もは貪瞋愚癡慢嫉妬等ごん心わくく。力人

乃力ありといふも。んハ地獄餓鬼虎狼毒蛇等ごん

心ありといふも。んハ徳とくごん魔縁まごんもくをあらは

ゆへよ。いづつうも徳とくごん魔縁まごんもくをあらは

ふんごん。実害をあらはすごん友柳とものやりをあらは

風よ。あつごふゆごんは換かせう。れみたうごん慈ん三昧さん

入のまを。一切の毒害をあらはすごんといふ。青天竺てん

王おう后慈恩ごんありて一切をわくく。んハ

三寶と教ごんは入りて。國王こく邪見じえんあり

いふ心ごんをわくく。村路むらじひる。若女わがも

の邪見をあらはすごん。いづつうゆへよ。矢張りてごん

移よ。まてく死ごん。路ごんひあ世間よのごんといふ。あは

然ごんらう。まはる面ごんはわくくも。あはくごん

んハ磨ごんり打ごんをてごんはるのごんといふ。あは

もまはるを。心ごんをあらはす。心ごんをあらはす。

を佛性ごんをわくく。んハ人ごん慈恩ごんを

なごんひごんのごんといふ。

學ごん道ごんのごん事ごん

三升ごんもわくく。俱舍ごん學ごん道ごんのごん事ごん

三升ごんもわくく。俱舍ごん學ごん道ごんのごん事ごん

て知者なふありなるを。わつ時が。乃るのよりりて。
 一人とらち申しく。血口志るりつるを。皆さかく
 あひつめて。使臣とすひて。力をねえて。一
 里かゝるりつるを。女をさそひて。打わらひて。是
 は何のぞや。と云ふ。一日血口志るり。ためし。そん
 ど。何ぞうしと云ふ。は。西房に。学道と思ひ。うまを
 吾下也。なり。其事。一の。府に。為謝せ。ハ。今。ぞ。く
 一あり。と云ふ。は。時。り。や。西房。なり。と。そ。り。て。云。く。
 力を。所。て。は。ま。て。ゆ。さ。り。つ。る。を。学。解。あ。い。た
 る。乃。は。法。の。念。く。滅。し。て。志。を。く。く。と。云。う。ま。う
 たり。乃。は。法。と。結。く。学。の。信。し。ら。う。ゆ。一。と。云。う。く。と。い。ふ。
 一。の。よ。ら。る。佛。法。此。利。益。固。お。交。了。そ。じ。り。漢。土

一。國。と。わ。り。て。天。下。の。智。者。と。云。う。ら。ん。そ。で。百。人
 の。言。傍。と。肉。裏。へ。結。して。武。士。と。殺。百。勝。あ。く。一
 お。さ。て。百。勝。と。俄。に。殺。害。と。云。ふ。體。と。て。あ。ら。ん。と。い。え
 る。皆。あ。り。て。さ。ら。ん。と。云。う。は。一。の。さ。は。ぬ。一。人。老。の。傍。
 女。と。さ。り。つ。る。び。て。儼。然。と。し。て。死。と。云。う。ら。ん。と。い。え
 斗。し。て。や。め。ぬ。王。は。傍。に。回。り。餘。は。傍。皆。お。それ。と
 然。和。尚。一。人。何。を。お。さ。さ。さ。さ。と。云。ふ。傍。の。い。く。く。生。傍。
 一。の。念。く。一。の。死。に。何。ぞ。ら。ん。と。云。う。は。一。の。と。云。う。と。云。う。
 一。の。ま。は。傍。と。音。者。也。と。云。う。は。何。ぞ。う。て。國。師。と。云。う。は。れ。り。
 一。の。初。め。始。れ。高。起。顛。倒。の。愚。な。り。心。を。な。げ。ば。身。と。傍。

報^{カク}北山^{セン}河^カ大地^チ屋^ウ宅^{タク}付^ツ物^{モノ}も。じく^ク此^{コノ}物^{モノ}う^ウら^ラめ^メと^トも
 一^{ヒト}も^モ刺^{セツ}那^ナ刺^{セツ}那^ナ一^{ヒト}も^モ生^{シヤウ}滅^{マツ}して。是^{コノ}の^ノ相^{サウ}は^ハ滅^{マツ}して
 新^{カク}生^{シヤウ}生^{シヤウ}に^ニ新^{カク}あり。業^ノ因^{イン}縁^{エン}より^リて^テお^オ後^ゴし^シと。
 一^{ヒト}も^モさ^サ程^{チヤウ}あり^リて。け^ケづ^ツこ^コの^ノ時^{トキ}は^ハは^ハは^ハな^ナり。他^{カク}乃^ノあり
 け^ケや^ヤさ^サり^リ。火^カの^ノ相^{サウ}も^モも^モ刺^{セツ}那^ナ刺^{セツ}那^ナ一^{ヒト}も^モ火^カさ^サり^リと^トも
 他^{カク}れ^レカ^カさ^サり^リ。又^{マタ}生^{シヤウ}ず^ズ又^{マタ}生^{シヤウ}ず^ズけ^ケづ^ツ也^ヤ。水^{スイ}乃^ノな^ナが^ガ生^{シヤウ}ず^ズ同
 一^{ヒト}も^モ。一^{ヒト}も^モ似^シく^ク生^{シヤウ}ず^ズ。此^{コノ}れ^レも^モ火^カさ^サり^リと^トも^モさ^サり^リ
 づ^ツら^ラづ^ツと^トも^モ。さ^サも^モを^オれ^レみ^ミる^ルこと^トも^モ。我^{ワガ}終^{シヤウ}日^{ジツ}り^リひ
 づ^ツと^トま^マじ^ジた^タら^ラわ^ワと。顔^{ケン}回^{クワイ}が^ガわ^ワく^クさ^サら^ラと^トカ^カら^ラと^ト。一^{ヒト}も^モ
 心^{シン}を^オ考^{カウ}く^クよ^ヨと^ト先^{セン}れ^レ身^ミの^ノ滅^{マツ}と^トも^モ也^ヤ。顔^{ケン}回^{クワイ}が^ガ阿^アら^ラと^トも
 終^{シヤウ}れ^レと^トも^モカ^カら^ラや^ヤら^ラ也^ヤ。古^コ人^ニの^ノ心^{シン}も^モ。仁^ニ顔^{ケン}自^ジ在^{ザイ}在^{ザイ}在^{ザイ}
 此^{コノ}れ^レの^ノ時^{トキ}は^ハ老^{ラウ}體^{テイ}乃^ノ身^ミの^ノ今^{イマ}あり^リた^タも^モさ^サり^リ。じく^ク
 梵^{ハン}志^シあり^リて^テわ^ワく^クう^ウして^シ他^{カク}國^{クニ}より^リて^テ年^{ネン}た^タけ^ケと^ト
 後^{コノ}志^シへ^ヘゆ^ユ。里^リ人^ニじく^ク此^{コノ}人^ニの^ノ來^{ライ}を^オ知^チや^ヤと^トも^モ梵
 志^シ然^シに^ニじく^ク此^{コノ}人^ニの^ノ心^{シン}も^モ。じく^ク此^{コノ}人^ニの^ノ心^{シン}も^モ阿^アら^ラと^トも^モ
 一^{ヒト}も^モ。然^シも^モ年^{ネン}月^{ゲツ}乃^ノ去^{キョ}す^ス事^シを^オ知^チり^リて^テ年^{ネン}不^フ去^{キョ}す^ス
 一^{ヒト}も^モひ^ヒて^テじく^ク此^{コノ}人^ニの^ノ心^{シン}も^モ。人^ニを^オ知^チり^リて^テ道^{ドウ}林^{リン}
 禰^ニ師^シ秦^{シン}山^{サン}乃^ノ長^{チャウ}松^{ソウ}れ^レう^ウ。居^イる^ル時^{トキ}人^ニを^オ知^チり^リて^テ實^{シヤク}
 實^{シヤク}和^ワ尚^{シヤウ}と^トも^モ。名^ナ付^ツ白^{ハク}居^イ易^イ侍^シ郎^{ロウ}。其^{コノ}國^{クニ}より^リて^テ一^{ヒト}も^モ
 一^{ヒト}も^モ。同^{ドウ}く^クい^イと^トも^モ。禰^ニ師^シれ^レ居^イる^ル也^ヤ。う^ウく^ク一^{ヒト}も^モ。師^シ乃^ノ
 一^{ヒト}も^モ。我^{ワガ}乃^ノ何^{ナニ}れ^レわ^ワや^ヤ。一^{ヒト}も^モ。事^シ乃^ノ阿^アら^ラん^ン。侍^シ郎^{ロウ}が^ガわ^ワや^ヤ。

中先よりももるるべしとて侍郎つとくそ

が江山を流るるべし何乃わやうさるるあらん

師の云、薪火相交りて。鐵性そまらば。何乃わや

うさるる事ありん侍郎がいづくの佛法の

大意師れいづく。法惠莫作。應吾身。侍郎

云。三歳は孩兒もわかれど。いづくの佛法の

師の云。三歳は孩兒も云事。いづくの佛法の

翁もいづくの佛法の。いづくの佛法の。

は。終ハ法惠莫作。いづくの佛法の。

わ。いづくの佛法の。いづくの佛法の。

佛の。いづくの佛法の。いづくの佛法の。

日傳賣くらねやめはとひく馬よ付てあるはろ
せして好て好しきむははとひくまはの
かのまねね惑せし終たりしるや云なきは
そつてとつて才子たかほはるるを作つて
時々のまねやあり。是ハ傳賣ありといハ
連ハかろ中非字函ふく。まなきもまね
らとふあうね。傳賣ハまね中。傳うりハ傳
まは別教の心あり。圓教の心ハ傳うり即ハ
うり傳うり即れらるる。まなきもまね
まなきもまね。まなきもまね。まなきもまね
乃一諦の中。真諦ハ空平等の。つりあまを
陀依正等の別無。結法乃自性空をゆゆ。俗
禪ハ結法乃因縁和合せゆ。假相と厚ず。ま
凡聖位より迷悟。まなきもまね。天台の法
三諦の中。空中ハ真諦如々平等あり。假諦ハ
縁起の故。十衆は依正塵法。てまなきもまね。摩
論云般若の門ハ觀空と。溫和の門ハ涉者中。溫和
方便の梵語。世間の縁起乃假相とやかくん。和光利
物。俗諦乃差別とまなきもまね。まなきもまね
淨名經ハ云。吾徒ハ別結法。お於才一義心不動云
文乃意真諦才一義ハおひく。ハ平等無相の意

わきまを以て法苑法乃信端縁起吾亦凡聖を
 ちよと分判して一燈のり。法佛の法常
 二端より起り。古人の云。實際の理地よ。塵を
 まとへ。法事門の中よ。一法をもすてと云。
 御うよ。信通の平等とあり。くわたり。真
 端の理は。自ら相即といふ。何ぞ唯端より傳
 賣れ。即せん。屠と。同宿と。下人も。一切相即
 とす。十界皆一相の故。唯の相感。た
 相感せ。まん。我を人。自他のゆ。より
 信端縁起の假相の面。法賣れ。別
 何ぞ。見解の
 り。我事。勿。弟子。非。学。道。水。
 な。と。道。理。に。て。つ。り。ん

学通の世間を法苑の事

志州の東城寺。法華教王房の法橋とて。寺法
 師の学通も。信事。正教。母眼とす。し
 於密のり。わ。上。人。也。世間。事。の。事。
 金波。田舎。田。よ。ま。ん。さ。く。水。法
 師。糞。と。馬。付。く。行。と。て。せ。の。と。く。お。ん
 其。人。と。り。ま。法。師。の。新。り。ま。仁。王。法。を
 後。も。馬。の。糞。お。た。る。仁。王。法。も。阿。ん。や。を
 つ。ひ。ら。又。或。時。弟子。た。り。後。り。て。と。く。世。間。の。人。れ

ろくありて。わの計不^{えら}ま^え也。法師興あ^りる事案^九
お^りて。梓^{さいし}一^つもく白^{くわい}二^つ所^こく^りて。やうあり。二^つ白^{くわい}
考^りれ^して。二^つれ^うと。い^ふは^らる^にむ^ろさ^つつ^り
あ^り。ま^て梓^{さいし}と。あ^け下^{くだ}だ^んよ。二^つ白^{くわい}と。ほ^くせ^しと
ゆ^へ。才^{さい}ま^れ云^わ。上^う乃^の白^{くわい}よ。お^がた^まり^しく^はく^はく^しも。あ^ん
と^つと^まく^はく^しと^しつ^りい^びあ^んし^をあ^けき^とく^はま^よ
つ^まは^らり。海^{うみ}湯^ゆよ。或^{ある}女^に房^ぶ世^せ間^{かん}う^らく^し。世^せ智^ち辨^{べん}
聰^{そう}な^りあ^らり。考^りゆ^うつ^りい^びれ^りて。女^に言^{ごん}え^んと
へ^らる^人乃^の世^せ間^{かん}い^ち事^じ也^{なり}。人^の使^しを^まれ^おり^んに^は
物^{もの}を^まん^事も^致に^ん。人^よう^りわ^りし^て。あ^ん
と^つと^まく^はく^しと^しつ^りい^びあ^んし^をあ^けき^とく^はま^よ

一^つ合^あひ^やい^りん^もま^まに^あり^やら^ずに^事を^ます^は
海^{うみ}女^に乃^の計^{けい}と^して。海^{うみ}女^には^まの^かれ^りと^ます^は
桐^{とう}壺^が。二^つ掃^{そう}木^ぼ。三^つ着^{ちやく}は^らえ^んと^して。う^まは^らる^相壺^が
あ^らる^まも^あら^り。一^つ合^あひ^やい^りん^もま^まに^あり^やら^ずに^事を^ます^は
い^ふは^らる^人乃^の世^せ間^{かん}い^ち事^じ也^{なり}。人^の使^しを^まれ^おり^んに^は
物^{もの}を^まん^事も^致に^ん。人^よう^りわ^りし^て。あ^ん
と^つと^まく^はく^しと^しつ^りい^びあ^んし^をあ^けき^とく^はま^よ

久ハ虬トシテ。暮ルトモ。海中ニ集ルル。山ニモ。
かりトモ。蛇ノミル。海ノ中ニ。山ニモ。
ゆんんと。ゆんんトシテ。我々。我々。我々。我々。
うんんトシテ。我々。我々。我々。我々。
ゆんんトシテ。我々。我々。我々。我々。
ゆんんトシテ。我々。我々。我々。我々。
ゆんんトシテ。我々。我々。我々。我々。
ゆんんトシテ。我々。我々。我々。我々。

久ハ虬トシテ。暮ルトモ。海中ニ集ルル。山ニモ。
かりトモ。蛇ノミル。海ノ中ニ。山ニモ。
ゆんんと。ゆんんトシテ。我々。我々。我々。我々。
うんんトシテ。我々。我々。我々。我々。
ゆんんトシテ。我々。我々。我々。我々。
ゆんんトシテ。我々。我々。我々。我々。
ゆんんトシテ。我々。我々。我々。我々。
ゆんんトシテ。我々。我々。我々。我々。

ろくろいさ。版立の巻は力もくころゆるやうに。
鹿にのり。我を抽れおそう。しらねの昔あり。今
かて。それ教もこれぞ身はくさるん事。よ。一。は
吾も。い。と。こ。して。さ。う。は。と。い。ふ。又。百。足。と。山。神。也。
蛇。知。音。と。い。ふ。山。中。よ。と。い。う。み。る。は。百。足。山。神。よ。云
く。我。の。百。足。の。名。は。さ。う。と。い。ふ。あ。ま。り。さ。う。の。名。は。さ。う。と。い
ふ。一。の。よ。ま。て。い。う。と。い。う。た。や。さ。う。と。い。う。ん。の。千。の。足。
と。い。う。と。い。う。と。い。う。二。足。の。名。は。さ。う。と。い。う。我。の。足。一。の。よ。ま。が。り
の。り。と。い。う。と。い。う。海。が。の。千。の。足。の。名。は。さ。う。と。い。う。と。い。う。と。い
う。と。い。う。蛇。の。名。は。さ。う。と。い。う。一。の。よ。ま。が。り。百。足。の。名。は。さ。う
と。い。う。と。い。う。と。い。う。と。い。う。と。い。う。と。い。う。と。い。う。と。い。う。と。い。う。

し。い。事。と。い。う。と。い。う。と。い。う。と。い。う。と。い。う。と。い。う。と。い。う。
不知。在。蘭。の。か。さ。う。と。い。う。と。い。う。と。い。う。と。い。う。と。い。う。と。い。う。と。い。う。
何。ゆ。え。り。た。ん。と。い。う。と。い。う。と。い。う。と。い。う。と。い。う。と。い。う。と。い。う。と。い。う。
お。人。の。名。は。さ。う。と。い。う。と。い。う。と。い。う。と。い。う。と。い。う。と。い。う。と。い。う。と。い。う。
の。り。と。い。う。と。い。う。と。い。う。と。い。う。と。い。う。と。い。う。と。い。う。と。い。う。と。い。う。
ら。び。う。と。い。う。と。い。う。と。い。う。と。い。う。と。い。う。と。い。う。と。い。う。と。い。う。と。い。う。
と。い。う。と。い。う。と。い。う。と。い。う。と。い。う。と。い。う。と。い。う。と。い。う。と。い。う。と。い。う。
の。鶴。と。い。う。と。い。う。と。い。う。と。い。う。と。い。う。と。い。う。と。い。う。と。い。う。と。い。う。と。い。う。
と。い。う。と。い。う。と。い。う。と。い。う。と。い。う。と。い。う。と。い。う。と。い。う。と。い。う。と。い。う。と。い。う。
ゆ。り。と。い。う。と。い。う。と。い。う。と。い。う。と。い。う。と。い。う。と。い。う。と。い。う。と。い。う。と。い。う。
事。と。い。う。と。い。う。と。い。う。と。い。う。と。い。う。と。い。う。と。い。う。と。い。う。と。い。う。と。い。う。

通の蟻蝻中より同答せしん

学道の事

已講なる傍二人公徳はとめく返わりの草
鞋とらさたふと一人の伴云やりのり

五事

ふれたふれがとてあそびのり。解ふとにわはるは
徳のかり。徳に学道はあそびとてさくさく

学道の事と論議する事

三井寺月房とて中比碩学なり。幼少は
り。あそびとて。学道の外他事あそびて。論議

決擇道ゆり。さまたりけり。和ふは道つやくと
さあそり。才ふた。我朝つなひ。ソサ

今とてわさふ。和ふは道。ふれなると。事
そとてゆり。さそ和ふは體。はつをふり。のそと同

へ。古今の事とてこれ

年のうらむ。まはる。いかり。一とて。さそ。わん。に。は。さ。ふ
と。い。あ。は。り。同。く。り。の。御。房。ど。つ。ま。さ。り。く。と。を

云。は。あ。論。議。は。あ。の。り。よ。と。一。代。の。聖。教。の。弘。意
これ。は。死。と。解。脱。せん。た。り。あり。道。人。は。は。ふ。り。よ。と。これ。は

離。門。也。脱。離。師。が。乃。り。よ。と。は。脱。離。書。也。ま。り。と
聖。教。皆。福。義。よ。と。見。ゆ。り。け。め。が。離。れ。道。と。さ

習慮と生と存方便ハの...
諱ハラウクハ生死ノ業ニ終ル思ヒユクハ...

学道ノ前めくる事

画心ノ修習ハ修学ハ外他事ナク...
人ナリクモ... 相云倚語レテ...

ハカノ... 水...
カノ... 水...

世の中... 世ノ中ト存心ト云ハ...

可い。満哲の弁也。二つありて古々と海へそよよ
了もたに拾遺にあらず

傍和傳 一 ありとく

海山一うぬを月おれ心はまに西よりらん
とてね云倚結ときて口業はさうり初言成
入行事ハ深方といひて愛情よひつきてりあり
色もともじりて鋼ともな故なり。聖教れや
るまともへの無き心ともつてて世縁俗念は
とて。若利情執とも志意。風花ともく世上の
あてなるものあり。雪月と徧して心中れりて
とてとつりともをさすくは佛道も入るなり

法一とてはたなるまなり。さきハ古人の法
と修めや。あしとてけたとしてはありに
あしとて迷懐はあしくや。古系の上人の法師
なやとつりあひて。老後の迷懐よあつ上人

心の中は釈してあまき布しては日月はり
あつ他者れ心中。行りてくはてはなはきく。ん
なり。或身とも氣もそくはり。人ともは布して
わらりののり。あつるのり。あまき。海とれ
道のとあまのり。あつるのり。あまき。遠教師の
心にあひるつり。佛最後の說法も。空為宣して
死其後。悔あつるものとて。死と死法つり。文れ。我

一、心一
 二、期
 三、一
 四、一
 五、一
 六、一
 七、一
 八、一
 九、一
 十、一
 十一、一
 十二、一
 十三、一
 十四、一
 十五、一
 十六、一
 十七、一
 十八、一
 十九、一
 二十、一
 二十一、一
 二十二、一
 二十三、一
 二十四、一
 二十五、一
 二十六、一
 二十七、一
 二十八、一
 二十九、一
 三十、一
 三十一、一
 三十二、一
 三十三、一
 三十四、一
 三十五、一
 三十六、一
 三十七、一
 三十八、一
 三十九、一
 四十、一
 四十一、一
 四十二、一
 四十三、一
 四十四、一
 四十五、一
 四十六、一
 四十七、一
 四十八、一
 四十九、一
 五十、一
 五十一、一
 五十二、一
 五十三、一
 五十四、一
 五十五、一
 五十六、一
 五十七、一
 五十八、一
 五十九、一
 六十、一
 六十一、一
 六十二、一
 六十三、一
 六十四、一
 六十五、一
 六十六、一
 六十七、一
 六十八、一
 六十九、一
 七十、一
 七十一、一
 七十二、一
 七十三、一
 七十四、一
 七十五、一
 七十六、一
 七十七、一
 七十八、一
 七十九、一
 八十、一
 八十一、一
 八十二、一
 八十三、一
 八十四、一
 八十五、一
 八十六、一
 八十七、一
 八十八、一
 八十九、一
 九十、一
 九十一、一
 九十二、一
 九十三、一
 九十四、一
 九十五、一
 九十六、一
 九十七、一
 九十八、一
 九十九、一
 一百、一

てば世のそとそとてかしく一も業をたてかりひ
留まるとりよ。後梅うさだかめるとわさまふさるる。
御母もろくろくろる。びあれん。あやうも母ひ入る。あ
しんくそそくはりまうに。くくそと。ゆさ。りゆ也。

わかれ道ううと。理を事

和ふは道とあひく。あ。教乱鹿動の心とをぬ。寂妙
困勢は徳有。又しんくそとくあ。て心とゆく。あを。
惣持の候も。一。惣持と。い。ハ。とれ。つ。陀羅尼也。
我朝の林のあ。あ。く。ハ。佛菩薩の垂跡。應か。随一
たり。素蓋の鳴の。あ。と。て。よ。お。雲。八重。く。の。三十一
字。れ。縁。と。り。め。は。り。り。佛。は。縁。よ。と。り。り。を。り。り。

の。治。理。后。も。た。ぐ。其。國。の。人。れ。し。ん。く。也。佛。曼。を
り。て。治。理。后。と。統。治。つ。り。び。ゆ。一。の。禪。師。は。大。日。經
乃。疏。也。隨。方。れ。詞。皆。治。羅。尼。と。つ。り。は。り。一。祇。園
よ。か。終。つ。た。く。和。國。の。と。と。を。以。て。治。理。后。と。あ。り
ぬ。り。一。惣。持。ハ。か。文。字。あり。文。字。惣。持。と。わ。く。る。は。
何。も。れ。國。の。文。字。う。惣。持。と。わ。く。つ。は。徳。な。り。く。ん。い
つ。ん。や。き。野。大。師。も。又。大。皆。聲。の。り。六。塵。と。く。く。文
字。也。と。り。終。つ。り。み。ま。と。か。く。は。喜。あ。り。阿。字。と。り。わ
も。と。り。阿。字。一。阿。字。と。り。わ。り。密。教。は。根。也。と。り。わ
り。母。と。舌。相。言。語。皆。真。と。り。わ。り。大。日。經。は。三。十。一。品
も。と。り。わ。り。三。十。一。字。よ。り。く。も。り。世。間。お。世。の。た。り。わ。り。

ては世のそとをかくして榮光をかりひ
留まをわくは後梅うさだくわをわさまふさる
織母とろくわくふびふれんすもやふ母ひ入るは
約也

一 高麗字新一

右の五段をよみ遊亭光

孝の回をいし語下御の

九ノ元

田中光福



阿の蘇也

所是を
大日經
我國
を志す
くく文

その也しつ活つりみ善をかし信善あり阿字をくわ
まてくろく阿あり阿字をれつら密教に根也也
淨母も舌相言語皆真云とつり大目経に三十一品
もよあづく三十一字よわくまてり世同お世のたむを

三十一字の中よりよくして。佛菩薩は應もあり。法の
 人の教の感もあり。よの法羅尼も。天竺の世俗の事と
 なす。どら。法羅尼のいづき。是をたして。滅罪の
 德。接若の用あり。日本は。わがもよのつひ。くも
 なす。さう。わが。あひひて。さひ。との。ま。は。あ。る。ん
 感あり。ま。う。て。佛法の心を。く。め。ん。い。う。さ。ひ。た
 く。法羅尼。なり。れ。下。真言密教の。な。り。ひ。り。法
 爾。不起。勞。荼羅羅。隨。縁。上。下。迷。悟。轉。と。て。六。大。法。界
 四。種。曼。荼羅羅。なり。依。報。と。り。の。寂。光。と。い。ひ。心。報。を
 た。づ。わ。る。も。心。盧。遮。那。佛。也。た。く。と。の。も。と。ま。ま。り。ん
 ん。と。い。ふ。り。て。ら。く。ま。ま。り。ん。を。め。れ。海。に。入。ら。自。己

本曼荼羅羅なり。ば。心。と。ら。ひ。の。ひ。なり
 かの。つ。つ。を。野。い。を。ろ。薄。ま。し。ま。ん。だ。と。も。ん。心。を
 わ。る。と。真。言。と。心。めて。ゆ。り。事。聖。心。あり。教。人。の。い
 と。心。も。と。し。え。り。然。ハ。法。界。ハ。一。と。い。ふ。也。教。人。も
 一。と。い。ふ。と。り。て。語。り。て。佛法。と。り。終。ふ。云。中。に
 義。理。を。ゆ。め。の。む。あ。る。ど。也。持。た。り。也。持。た。り。と
 ろ。る。び。真。言。か。り。下。天。竺。漢。土。和。國。其。詞。こ
 な。も。た。ぞ。心。也。一。と。も。益。と。ぞ。一。同。い。ひ。人。も
 件。教。ひ。ら。り。て。も。義。門。と。ろ。く。利。益。處。と。り。て
 し。と。よ。さ。さ。ま。り。る。り。なり。只。心。と。得。て。あり。ひ。を

此の如くも感^ん應^おをば一六聖^ん祇^ん園^んはわ^らりて
てどもくよ和^わ方^{かた}と縁^{ゆかり}ト縁^{ゆかり}の市^{いち}源^{げん}も

只^{ただ}その志^しの^ち系^{けい}統^{とう}も^も系^{けい}統^{とう}世^{せい}中^{ちゆう}は^はん^んま^まり^り
と^とあり^りの^の道^{みち}も^もと^と羅^ら尼^にた^たる^るも^もう^うう^うう^う
ら^らば^ば林^{りん}明^{めい}又^{また}多^たく^くを^を感^{かん}して^{して}人^{ひと}の^のの^のま^まと^とま^ま
し^しの^のゆ^ゆふ^ふか^かく^くく^くわ^わ方^{かた}れ^れ德^{とく}也^{なり}持^{もち}れ^れ義^ぎ法^{ぽう}羅^ら尼^に一^{いち}也^{なり}
心^{こころ}う^うへ^へし^し綺^き語^ごの^の失^{しつ}と^と悔^{くわい}也^{なり}失^{しつ}は^は人^{ひと}の^の深^{しん}汗^{あせ}の^の心^{こころ}
も^も聖^{せい}教^{きやう}と^とも^も名^な用^{りやう}の^の養^{やう}より^{より}ら^らゆ^ゆり^り時^{とき}は^は皆^{みな}魔^ま業^{ごう}
と^となる^{なる}は^は毛^{もう}人^{ひと}の^の失^{しつ}也^{なり}毛^{もう}より^{より}る^る而^{しか}も^も持^{もち}れ^れ德^{とく}と^とし^し
なり^{なり}へ^へく^くは^は深^{しん}と^とう^うむ^むら^らわ^わり^りと^と成^{なり}後^ごれ^れ中^{ちゆう}
し^し綺^き語^ごと^とあり^りと^とあり^りは^は自^じ他^たと^とは^は理^りり^りと^とを^を成^{なり}て^て

書^{しよ}玉^{ぎよ}の^のり^りの^のど^どは^は濶^{くわく}か^かる^るん^ん法^{ぽう}法^{ぽう}實^{じつ}相^{じやう}也^{なり}色^{しき}香^{かう}中^{ちゆう}
道^{だう}也^{なり}鹿^{ろく}言^{げん}軟^{なん}滑^{くわく}皆^{みな}身^{みん}一^{いち}義^ぎ也^{なり}何^{なに}ぞ^ぞの^のあ^あり^りと^とし^し
も^も之^{これ}く^くひ^ひら^らそ^そん^ん活^{かつ}生^{せい}産^{さん}業^{ごう}悉^{しつ}く^く實^{じつ}相^{じやう}と^と背^{せい}す^す何^{なに}
ゆ^ゆり^りし^し時^{とき}鹿^{ろく}は^はく^く妻^{さい}と^とあ^あり^りと^とあ^あり^りひ^ひつ^つり^りゆ^ゆり^りと^と
は^はれ^れつ^つま^まい^い妻^{さい}と^と鹿^{ろく}は^はく^くと^とあ^あり^りと^とあ^あり^りと^と
皆^{みな}與^よ實^{じつ}相^{じやう}不^ふ相^{じやう}遠^{えん}背^{せい}と^と

湖石集卷第百上終

沙石集卷第六 下

目録

神しん的てき祈いのちと感かんと人ひとと助すけけ事こと

人ひとれ感かんわつ和わ奇きれ事こと

夏なつの中なかの音ねれ事こと

祈いのち故こ命いのち失しれ事こと

まあわつ音ねれ事こと

哀あはれ傷やうれ秋あきの事こと

権けん化けの和わ奇きれ事こと

祈いのち基もと薩さつ乃の事こと

いたせんにせむらふも母もかゝる歎にまをたをた
天井も感とゆへまもまも痛つたにうり神の
とのみそ
大江の擧目痛ありくし
あうらる重。佐吉の雨うりなりけむ母希澤
門どしうりして我命とめし
とわりして内てうりうりして
かかんとわう命いりてさそわつて
其の白髪乃老翁け幣とふと
とて痛の急よりり

人れ感ありわあ乃事

或地乃乃此前裁乃梅の花と二枝ありて
ありのむてあはは師さう
ありのむと冠者系がうりて
不祥よあひてせんうり
し後うり

白波乃若とわたつた吉野川花ゆ
使しつくとつと繩あつのも
うりあてさゆくあ
あふりうりあ
うりあてさゆくあ
あふりうりあ
あふりうりあ

先此の師の行へん。事は子細と同一の思を此置に
久教の事。常れなきひとあまは斗也。三井寺
中ゆへん事。つやくもあはりりともづい。先此を
うりてかたりんさく。後と根とあまもく。かくぞ
云ぬりけり

山は端は物とて中を月影の中とや三井のたむび
寺法師をさかむ。感して秀奇なりなり。わさく
別の子あうりあうりづい山へ送りりけり

一 鎌倉。或傍房は呪師とてしる事ありま
他の傍房はたてがら。抱れ具足なわくたる中
詞花集とてまじりていふ事ありて送りり

いふて初の花はあそふもあそふ人のこと
其呪はあはれぞ。亦あうりまうり。まよはうりあうり
一 或御相石見は圓の圓司とて石見方もくあそび
たまひうりに圓れなるひよとく。あつさうあ海人ぞ。
あまいづいあまうりひうりぞ。あまあふりあんゆり。
あまてうりあま。まもせうとまひまを。あまを
めそくうりあま。あまのあまのあま。中る難色
あまうりあま。あまあま。あま。あま。あま。あま。
あまうりあま。あまあま。あま。あま。あま。あま。
あまうりあま。あまあま。あま。あま。あま。あま。

法橋 ちりり 母方のことよりの

一 信光法眼 法中 しんこう ぼうがん ぼうしん とのをひきて

ひきかへ ひきかへ 今なむ いま さいれ さいれ して して 母 はは はん はん 法中 ぼうしん と と なる

法中 ぼうしん 母 はは たる たる こと こと せ せ 母 はは たり

一 宇治 うぢ の 入道 にゅうだう 殿 どの 母 はは の 法 ぼう 中 しん なる なる こと こと せ せ 母 はは たり たり なる なる こと こと せ せ 母 はは たり

いと 顯揚 けんぎやう 丸 まる 御 ご の の こと こと せ せ 母 はは たり たり なる なる こと こと せ せ 母 はは たり

は は たり たり なる なる こと こと せ せ 母 はは たり

我 われ と と 母 はは たる たる こと こと せ せ 母 はは たり たり なる なる こと こと せ せ 母 はは たり

入道 にゅうだう 殿 どの 母 はは の の 法 ぼう 中 しん なる なる こと こと せ せ 母 はは たり たり なる なる こと こと せ せ 母 はは たり

和泉 わづみ 或 ある 親 おや 編 あひら 居 い たり たり なる なる こと こと せ せ 母 はは たり たり なる なる こと こと せ せ 母 はは たり

母 はは たる たる こと こと せ せ 母 はは たり たり なる なる こと こと せ せ 母 はは たり たり なる なる こと こと せ せ 母 はは たり

なる なる こと こと せ せ 母 はは たり たり なる なる こと こと せ せ 母 はは たり たり なる なる こと こと せ せ 母 はは たり

も も 母 はは たる たる こと こと せ せ 母 はは たり たり なる なる こと こと せ せ 母 はは たり たり なる なる こと こと せ せ 母 はは たり

も も 母 はは たる たる こと こと せ せ 母 はは たり たり なる なる こと こと せ せ 母 はは たり

母 はは たる たる こと こと せ せ 母 はは たり たり なる なる こと こと せ せ 母 はは たり たり なる なる こと こと せ せ 母 はは たり

よ よ び び 入 い り り なる なる こと こと せ せ 母 はは たり たり なる なる こと こと せ せ 母 はは たり たり なる なる こと こと せ せ 母 はは たり

後 ご 法 ぼう 橋 きょう の の 法 ぼう 中 しん なる なる こと こと せ せ 母 はは たり たり なる なる こと こと せ せ 母 はは たり

伴 ばん 助 すけ の の 圓 えん 丸 まる 夫 おとこ の の 中 なか なる なる こと こと せ せ 母 はは たり たり なる なる こと こと せ せ 母 はは たり

花 はな の の こと こと せ せ 母 はは たり たり なる なる こと こと せ せ 母 はは たり たり なる なる こと こと せ せ 母 はは たり

若 わ 菜 さい に に 咲 さ き き たる たる こと こと せ せ 母 はは たり たり なる なる こと こと せ せ 母 はは たり たり なる なる こと こと せ せ 母 はは たり

夫 おとこ が が 母 はは たる たる こと こと せ せ 母 はは たり たり なる なる こと こと せ せ 母 はは たり たり なる なる こと こと せ せ 母 はは たり

るを後み母れりとにほろりあゝ後よこけゆを。
 清江川乃なるもまたらなかりり。秋草は花乃多。
 ちきまひらき。わげ物さびく。よりなる気
 氣也。春村れ中り。あらご志し。まらりて
 うら海けりけ。

別送中。偏く海河神のしらすあや
 彼見ふもいぬ。うら志量乃仁也。あひひか
 事よそや。或母の歎きゆ。汁かりら。かきけ
 けの事。れ良か。り。の母けりけり。お知なる人
 一 志事。れ太氣。遠身。ゆりて後。或人の後。

舟の故も余とや。いふゆり。

長徳御三月小なり。うらうら年。秀言よそそ。ゆき
 きて。公任の郷も。終り。

心うら年。おもむる。女日。餘九日。と云。春のさるり。
 公任郷。まひ三千日。ゆ。と難せ。とて。じゆ。
 ちり。そそ。けり。終る。病付。終に。失。

一 天徳のいふ。命の時。兼盛。忠見。あちり。番
 かり。初意。と云。終とな。うら。忠見。秀。あり。出
 ちり。とあり。ひ。兼盛。い。と。と。の。あ。心
 る。を。思ひ。

悪くも我々の心もさうなかり人知れずと云ひさめ
何と云ふ事も清浄なく穢して判せしむればなり。
兼盛の奇母

ついでと云はれり我々の相と云ふて人乃そまて
共小名前かりりまの。小野 大僧云ふも天気がう
ひびひるは。門。兼盛の奇母と云ふに三巻に流あり
りり。天気がなまると云ふ兼盛持てりり。患見心く
まてして。ひひさきりり。まよりり不食れ痛付て。於
より一やうく兼盛さうひひれを別乃痛くあり。
此の合の時。奇母より出てまてはりり。まのくわら
と人のうまうまて。何れと思て。ままま。くま
ひひさきりり。くわくわりり。ゆるえ。終に身廻りり。なる。
執心しより。まのま。乃らと執心ありひひりり。
まてま。ゆる。共。名。奇母。捨遣。入。く。ゆる。
ま。わ。れ。ま。乃。事。

兼盛の大臣殿の奇母

かりり。まの。相。風。よ。何。せ。つ。心。と。さ。つ。び。う。と。め。わ。か
け。あ。の。心。の。ゆる。ま。法。花。よ。法。法。從。前。來。考。こ
自。寂。滅。相。と。統。さ。人。の。萬。法。本。用。也。人。の。み。つ。り
の。そ。う。り。と。ま。て。法。法。の。り。り。寂。靜。安。樂。の。し。
生。死。去。來。の。方。な。り。一。念。に。迷。心。六。塵。に。妄。説。を。現
し。煩。悩。業。を。は。く。つ。て。其。中。は。苦。患。を。う。ま。

三悪八邪のうへにたれどとんかしておそき道なり
むゆ。とてむめのななりこそうこかしてどの道せられ
とらささつぐまほつとや。又道慶傍正の言よ。

松竹のまはれはのまれ枝とあまのまそ白記客たなりと
けちをともま下。法法の宣を相少して。生死に流轉又
心乃幻化。欲も其體あり。唯偏計れ虚妄分別の思
ひ付あそく。あそくを。まより似てまを現。宣とて
るはびあ。下。さ理とらつ。さまご枯木と當とみまご
ま。たごとのまご白さなり。萬法わくれとく。びな
しくとひなをひをるまあり

哀傷の言は事

わあ。と綺詞と云は事なり。なりと云はなり
と。或ハ深汗心なりなりて。思りぬ事なり。と云はなり
まごなるなり。離別哀傷れとひ切なり。なり付て
心れ中のとひと何なり。まごま云なり。て。義縁と云は
け一。まごなり。思ひ。下。なま。道。入。方。便
なり。下。右。さ。言。と。なり。他。心。れ。ま。ま。と。なり。て。
とひとの。ま。なり。に。修。人。の。ま。と。縁。なり。我。ん
と。と。と。修。と。ま。して。其。身。よ。何。なり。と。と。と。と。
思ひ。修。と。これ。の。ま。なり。む。じ。良。小。持。深。草
れ。天。皇。ま。と。と。ま。なり。て。世。と。つ。ま。海。と。の。道。り
て。何。なり。ひ。な。れ。ま。彼。他。名。修。り。なり。と。と。と。と。

一人をなすはうりしやめく

皆人の親れしむやよぬまなりしははなよらきたる母よ

一 泉武部。小武部は肉侍よしとれく。ふひ入り

く親母。上東門院より。年は治りり々親猶とされは

まごもつうりたりひつよ。小武部は肉侍と書はる

まごりなはととく

りつをに苦み下よふ初どしえりのまぬををるをせ

一 或人の母よしとれて

去りしはなれをくそあぐさまあ西親はるり受物なは

一 おぼろ人病ありりて。さうりなりはは

一 孝養の親文の奥母

義りよゆどくありとまそつぐ。ゆらひまかことじは

一 の髪とひき。梵字とわひく。侍養の親文の奥母

我はるれそそあてぶ。け子の黒髪とんりさるり

一 後名親院母のけく。かひく。けはな幸れひ

一 おく。あーわりはれわより。あはは(そまうりき)

西条法師

思ひおわおる親れはうりかり。巨海りともせれ山の謡

一 今まはん源なうりく。あせ川より月れひうりしひん

一 西行法師。圓く修り。く親。後波の院法師

廬より参りて。むろし十善の徳薫りたりて。般若の
まつりごとをさしめ。四海の帝王となりて。如来の
あまの御心より。かかす松山の。石の下
うらの道徳の行事。無き精變のしつりなき事。なると
るる夏の心りて。あらねども。まごころ。おまうり

りや若首の玉の磨るも。あらん後。何よういせん
若下のよ。おひりな。おひりな。おひりな。おひりな。
漢子とる徳の教母おえ。大勢なり。山は。徳の。しん
くま。くま。くま。くま。くま。くま。くま。くま。くま。くま。
徳の時。美徳。いさ。いさ。いさ。いさ。いさ。いさ。いさ。いさ。いさ。
との。と。
と。

と。
一は。花嚴の。二。唯一心と云。法苑の。唯有一佛
系と。起信の。一。心法界と云。天台の。唯一實相
と。後。思。后。一。心と云。浄土の。一心不亂
と云。宗門の。一心不生と云。密教の。唯一金剛を
説く。あ。と。
法。と。執。と。
平等の。一。理。と。
何。と。
と。

ト悟れ智う。ト然乃さうりう。云の是也念慮に
あはれ。又念性とたれども。見や。是知は。任せ。又見や
是知と。是をさうりう。我心し。つ。い。て。そのあか
あまぬべさ。此。即。高。う。奇。此。是。法。の。秘。傳。家
肯と。つ。う。は。を。と。る。一。阿。字。と。云。は。不。生。れ。候。也。
文字と。傳。ふ。は。あ。く。唯。心。不。生。な。は。是。何。字。なり。
密。宗。此。大。意。是。よ。あり。滅。は。心。地。中。深。汗。た。く。ふ。別
なく。は。何。字。と。ら。ぬ。一。念。不。生。れ。心。す。ま。う。ら。何。字。と
け。故。も。あ。く。と。方。便。と。り。り。あ。や。ん。さ。く。初。意。と。と
と。あ。一。り。り。や。滅。は。塵。勞。は。れ。一。さ。つ。さ。と。忘。れ
解。脱。の。ゆ。な。は。流。し。入。方。便。わ。あ。れ。一。道。と。と。れ。り。
我國は。徳。と。た。ま。は。つ。は。權。化。先。徳。む。一。し。り。り。て
あ。ま。ひ。給。ふ。事。も。け。ゆ。へ。り

權化のわありてあまひ給ふ事

東大寺の縁起と粗取り。一。良。辨。信。正。幼。少。を
時。辨。り。し。一。つ。た。つ。ま。て。本。上。よ。任。て。け。り。大
伽。藍。と。建。立。せ。ん。と。云。誓。願。と。あ。り。て。國。主。は。ら
ら。と。ん。あ。ま。て。い。た。り。が。さ。わ。は。す。と。あ。ひ。く。聖
朝。安。穩。天。長。地。久。と。い。り。り。聖。武。天。皇。の。由
耳。中。宮。の。御。執。使。と。け。り。て。表。れ。さ。う。ま。と
た。つ。一。の。給。ふ。事。當。時。の。東。大。寺。に。む。し。源。山。あり。は
母。大。本。上。に。小。童。あり。て。び。事。と。祈。り。り。り。候。

よ。東山の仙人とて。勅使申れ申とて。あつたり。
 大教れ也とて。勅使申りあがりて。中とと。卷と。そ
 子依て。帝王に感わりて。行基菩薩として。勸進
 の聖人として。法圓の人として。帝王大檀那と
 して。内建立あり。行基菩薩の導師。行基菩薩と
 傳阿りの。並に。志と。志と。志と。志と。志と。志と。志と。志と。
 百傍。并に。伶人を具して。非波の津よ。行むと。
 雅樂とて。大団圓のうら。相と。海と。うら。うら。うら。香
 燭と持て。あつたりとて。行基よ。安羅門僧正。天皇
 うら。船よ。あつたりとて。行基よ。安羅門僧正。天皇
 まつり。安羅門僧正。行基よ。安羅門僧正。天皇
 基菩薩の百傍。並に。志と。志と。志と。志と。志と。志と。志と。志と。

と。行基よ。安羅門僧正。天皇
 菩薩歡喜の行。行基よ。安羅門僧正。天皇

靈山の秋。安羅門僧正。天皇

舟をき

此羅衛に。安羅門僧正。天皇
 安羅門僧正。天皇
 寺と。安羅門僧正。天皇
 皇觀音。良辨僧正。天竺の菩薩。我園の大聖。天皇
 安羅門僧正。天皇
 や。道れ。安羅門僧正。天皇

聖徳太子の用明天皇の御子に御成りて御成り
 て皇子の御中より御成りて御成りて御成りて
 禮にて敬禮救世觀世傳燈東方粟敷王と云ふ
 觀者此化身の垂跡なりと云ふ事也世に於て之れな
 く人々此を以て或時片曇山と云ふ所なり馬と云
 ふ馬より御成りて御成りて御成りて御成りて
 と云ふ事なり又云と云ふ事なり
 志あるや片曇山乃飯より多き者諸人ありて
 御成りて

彼亂の達磨大師之平氏が太子傳太子生りて
 大唐の衡州衡山より御成りて慧思禪師也達磨
 大師より御成りて彼東海の人因果と云ふは佛法を
 之れ生と教にて食う生と教にて衣と云ふ者
 彼國の因縁なり彼國を生れて佛法をひらけ
 生と利と云ふ事なり御成りて御成りて御成りて
 生れ給りて御成りて御成りて御成りて御成りて
 まで三寶の名字と云ふ因果の道理と云ふ事なり
 ゆるひと云ふ事なり御成りて御成りて御成りて
 御成りて達磨大師の御成りて御成りて御成りて
 方便御成りて御成りて達磨大師と云ふ漢家より

わんぢ人云。癡愛も亦深も。珍分は拂はくも中
何りとも。煩悩と菩提と。用屋のつらてるで
こつ事あり。唯上古れ先達心とまめん。凶代の
子者れ情も。あなう。教と縁と。父母也。
母の愛やうにわつ。教門のこゆるやうに。瀉薬
教の飢て食とら。縁の腹をれらう。瀉薬
とら。縁の腹をれらう。縁の腹をれらう。瀉薬
満てゆると。物と。縁の腹をれらう。瀉薬
迷悟凡聖の差別も。縁の腹をれらう。瀉薬
法。亦知見解會。佛見法見。放。佛
飲て補薬と服とら。縁の腹をれらう。瀉薬
目。縁の腹をれらう。縁の腹をれらう。瀉薬

乃基菩薩の奇れ事

乃基菩薩。和氣に圓中降誕。業師と云下女也。
ち。乃基菩薩。和氣に圓中降誕。業師と云下女也。
わや。乃基菩薩。和氣に圓中降誕。業師と云下女也。
とく。乃基菩薩。和氣に圓中降誕。業師と云下女也。
大佛頂陀羅尼。乃基菩薩。和氣に圓中降誕。業師と云下女也。
わ。乃基菩薩。和氣に圓中降誕。業師と云下女也。

一我童子一人が来るる子まわら成人して。来たる大
 佛殿なり。此勧進聖とぬゆり。彼西施生れに。昔
 ころと傳りあんとあになし。和讃とつらり福一竹
 里と終る。下ののこづに。業障の前の。誕生心ゆとま
 そゆりりる。とりに。鉢まう。入て。板木もそあま
 たりとゆりり。あつ人。誇りさ事。彼も奇特不思
 休りわ。和讃のこむ。ひやうり。い。信心もさ
 ひるん。地せり。其佛れ。凡あまう。さ。戸帳とからう。びく
 け。和讃も。和讃中。よ。おさ。む。と。も。先年。彼。西。業。の
 遺誠の。大見。ゆり。に。目。お。度。事。た。ゆり。さ。浄。云。に

信もさ。ひ。り。が。柱。人の。で。う。あ。う。れ。世。同。や。つ。う。さ。さ
 下。り。う。け。身。を。あ。く。う。ん。口。虎。身。を。害。し。舌。劍。余。と。た
 川。口。と。目。鼻。乃。で。く。ま。ぬ。ま。と。死。し。て。後。も。さ。が。れ
 一。口。と。守。り。心。を。接。め。く。身。は。犯。す。事。か。う。も。か。く
 の。く。く。あ。と。あ。の。世。と。悔。つ。事。を。得。う。と。書。け
 ひ。く。此。録。云

かり。を。あ。の。宿。る。我。を。今。交。し。物。さ。お。ひ。を。佛。と。お。あ
 大聖れ。此。録。され。ん。深。き。心。ゆ。ん。悔。し。ん。は。あ。り。わ。う。
 た。う。う。ら。ま。宿。る。凡。聖。れ。く。ら。う。と。あ。ま。さ。う。も。あ。る。乃
 即。命。へ。ま。れ。あ。り。あ。り。かり。を。あ。れ。宿。う。ら。あ。の。心。う。う

建治二年此紀列ありて八幡大菩薩の心徳宣ふ
 五々然も世にありて今我身とらひ素子と有り
 といく物と云ふ宿業とてありたり。片時も物と
 思ふが目と交るるもくあるなり。道世殊勝なりと
 信し被り。さて信宗のつまじき世に利益作
 と同じけき。宿業結に多しつもくあり。我もつま
 宿業の心地なりとの信ひたり。亦我の本地所居也
 我が教を教て念ふと信ひたりやとくし。故に
 て念ふも真云も一心母行と信むるも生れとら
 終つと教信ひたり。つまじき神慮も同じに
 ありて。六塵の幻陰と執と信ふも。虚假の
 世間と信ふも。思相見觀れを別や。むさ
 なり。ごまとうり見。亦事と云ひあり。現量あり
 して念ふも。いづれ身とかり。歩も信むるあり
 念とまあり。人間意と云ひ。冥途に也付事と云
 志。眼前の養れ中の事とのいつくも。身是後
 の練れ道の精と信ふも。教も云ひくも。あ
 しくして信ふ。富貴ありて。さかかんと云ふは
 あり。貪賤あり。富貴あり事と云ふ世間れなり。ひま
 風と云ふ人。万れ思ふも。さそ有り。たけと有り。計
 あり。ありつ。道心もたあり。人なもく。道道なり

らよなるをゆりー後人あふぬ身なづるにや海あり
と。心なしく日月と送る侍道はどぶざりーひうも。
今更なるしくそく侍ーまに。さひはけりなり

世中念ひたぐれて交りつてるぬれを布ーかきまらるる
無窮の生死の相とさふ心の交をあり。寂靜涅槃未之。
念なりさふまのつーつーあつたが下ーかろがゆりー海よ
ゆく。有念ハすありら生死。無念ハとれら泥洹と
ゆり。然なりうふけ詞ハ

汝石集卷第又下終

人の感有歎

本に裏書云草本より多有之此本ハ同
法書之皆舞たり。仍又書付写人任公
可有取捨
無住八十三

故漢舎れ右大物也。来りり何やめとつたよの
美人ありけり。さうして。かろーとさうさうりらうと。
握原れらるる昔來の尉あり。せんとさうりけさむ。甲
よりの十七八なりなり。女房あひ女の。さうさうねと。
十人の家来さる。あしんとさう。げ中よあやめと
んさうらるる。法之ーやわわやうさの終と。さう
るがさうさう

是と感^んトし^てさ^らし^てぐり。其^の座^はあり^りの^りと^いふ
入道^終の^り。大^やお^れ桃^{もも}尾^お山^{やま}寺^{てら}。講^{げん}の^り阿^あ梨^り
と^いふ^ら真^{しん}言^{ごん}師^し。其^の言^{ごん}素^そ緒^{じゆ}の^り道^{だう}。鑊^{くわく}口^{ぐち}の^り山^{やま}寺^{てら}
よ。お^れ衆^{しゆ}衆^{しゆ}の^りあり^りの^りと^いふ^ら。其^の具^ぐに^いは^れし^て。其^の小^{せう}
法師^{ほふし}。其^の馬^ばの^り口^{ぐち}の^りと^いふ^ら。

ゆれ口^{ぐち}の^りと^いふ^ら。其^の衆^{しゆ}衆^{しゆ}の^りと^いふ^ら。
や^びし^てあ^らわ^てつ^りの^りと^いふ^ら。

な^らず^には^れ世^よは^れあり^りの^りと^いふ^ら。
け^いの^りと^いふ^ら。其^の衆^{しゆ}衆^{しゆ}の^りと^いふ^ら。
又^{また}海^{うみ}の^りと^いふ^ら。其^の衆^{しゆ}衆^{しゆ}の^りと^いふ^ら。

春^{はる}の^りと^いふ^ら。其^の衆^{しゆ}衆^{しゆ}の^りと^いふ^ら。

是^{こゝ}と^いふ^ら。

是^{こゝ}も^も霧^{きり}の^りと^いふ^ら。其^の衆^{しゆ}衆^{しゆ}の^りと^いふ^ら。
兄^{あに}年^{ねん}海^{うみ}道^{だう}と^いふ^ら。其^の衆^{しゆ}衆^{しゆ}の^りと^いふ^ら。
ま^まの^りと^いふ^ら。其^の衆^{しゆ}衆^{しゆ}の^りと^いふ^ら。

富士^{ふじ}の^りと^いふ^ら。其^の衆^{しゆ}衆^{しゆ}の^りと^いふ^ら。
是^{こゝ}も^も座^ざの^りと^いふ^ら。其^の衆^{しゆ}衆^{しゆ}の^りと^いふ^ら。

曾^その^りと^いふ^ら。其^の衆^{しゆ}衆^{しゆ}の^りと^いふ^ら。

是^{こゝ}も^も衆^{しゆ}衆^{しゆ}の^りと^いふ^ら。其^の衆^{しゆ}衆^{しゆ}の^りと^いふ^ら。
蜂^{はち}の^りと^いふ^ら。其^の衆^{しゆ}衆^{しゆ}の^りと^いふ^ら。

ハツ^{はつ}の^りと^いふ^ら。其^の衆^{しゆ}衆^{しゆ}の^りと^いふ^ら。
さい^{さい}の^りと^いふ^ら。其^の衆^{しゆ}衆^{しゆ}の^りと^いふ^ら。

又阿弥人こそ母はく

軍中かゝる身をたうとをなす

或人此句母

作れあはるる母なるなりあり

是を修く

母あがらぬ長八の歌とておぼゆる

又阿弥人の句

ものく母のらゝをそらつてあそ

われらら花もろをそら

さや白あふ縁ぞも書付たり。字修く

字修のえもて連音有ける

親まあつて子も老母なる

や云白難句なり。明免房

我高れそとて母うへ三年作

奇人 幡磨房感して老母なる

燈倉より連音ありりゆ

船の中もそ老より致る

や云白より人 右同法也

後草代わのひの水は流るる

人々感外

東福寺れ傍の中の連音

治りわさつてらるる月

或人

大真とのあつと人やらん

故燈倉れ右大将家の物の時梳れ舞よ

とくりくらんを盡さるる

この終ひて。梶原付のや佐りもさ

突つてを斬つてこそこそうとつてさ

奥入の時。若さうり河さく

頼朝がうふれ軍母若さうり川

や佐りもさく。梶原付よと阿りの色む

若さうりもにくらわさうりせん

白粉の真福寺よつて母若合て連言なりとら此寺

傍四人をさうり人こそを四天王と名づけ。或阿れ連言に

袂ととば四天王をそ人のつよ

たぐい毗沙門のつよとこそみせ

東大寺最光一れてつらなりや 立れふそと

南原よこそ北と云たき

新綱北と云勢いなるれど

義系集母云く

山外れ勝りしはけりこれゆれ其若尾の上よ

かゝり下とまればさうりて物をとらよ此哉

先ハハハ

萬葉がうりれ事

中古れ。考列田中の庄と云ふ。観房と云ふ

山外れありる。湊あり。若退と云ふ。性か書り。悪

びくしを河ひたれ。又山外れ権つんと思ひりつるや

け事 自ら... 然野... 千福... 福... 幽... 書付...

千福... 観...

心... 藤... 友四郎...

ハ... 長明... 同...

沙石集卷第六上

目錄

禪師の強盜と殺心せしむる事

強盜の法門と云ふ事

淨遍信於の說法の事

聖元法平の施主令れ事

榮朝上人の說戒の事

結禪房の說法の事

有不得の說法の事

袈裟衣の徳の事

法石集卷第六 上

説經師カキテハ強盜カウゾウと殺心カウシンセリシコト

浴湯カウヤウハ説經師有リ。一説カウハ六聖カウクニ覺法カウケン中。一説カウハ

清水法師カウスイを述カウケル。傳カウ用カウセ。布カウ施物カウありて

陰カウハ今カウて論カウリテ。河カウ東カウヨク。賊カウ共カウありて

カウヤノ物カウをカウ取カウテ。張カウ本カウハ男カウ矢カウうカウらカウるカウ。興カウノ

前カウハ立カウテ。物カウをカウ取カウテ。心カウをカウ以カウテ。傍カウ思カウひカウテ。依カウ

心カウノ施カウ。三カウ實カウハ依カウ養カウとカウ心カウをカウ以カウテ。施物カウとカウ心カウ

をカウ以カウテ。佛カウ事カウをカウ以カウテ。利カウ益カウをカウ以カウテ。事カウをカウ以カウテ。

心カウをカウ以カウテ。思カウひカウテ。賊カウとカウ心カウをカウ以カウテ。心カウをカウ以カウテ。

心カウをカウ以カウテ。思カウひカウテ。心カウをカウ以カウテ。心カウをカウ以カウテ。心カウをカウ以カウテ。

カキテ

入りん事、の事、多し、く、何んぞ、と、
わ、何事、ハ、心、と、海、
何ぞ、電光、朝露、
時、の、苦、因、と、
人、身、れ、毛、
相、れ、阿、
非、何、ぞ、
そ、と、
く、
一、
電、光、の、

く、三、寶、の、
と、
が、
大、罪、と、
ん、事、
と、
入、
た、
入、道、と、

わり其心れ我身と安樂あり〜めんといへ〜行なるなり。
 あり〜と今生と後生と安樂なるべ〜と〜を
 振舞もなれ〜のれ〜ひ也。先今生の安樂を
 仁儀禮智信とま〜て其身とら〜め辱づ
 こと〜がた〜家とたり〜困とた〜あ〜ふ〜仁儀
 とお〜あ〜人ま〜也。身と安穩よ〜あ〜事〜か〜し。
 後生に安樂と思つ〜道行とあり〜は〜下〜は〜の
 中〜と小業れ行。於十二頭陀ツダを行。三生六十劫クワの
 修行く〜と〜。由來果有と〜と〜。今生も因
 あり〜とあり。大業れ修行い〜心よ深著せんぢやなり。身再
 修しゆり〜ひあ〜。びも安樂れ性よ〜あ〜ひて。五鳥常修の
 道よ入〜と生とま〜ひなり。當來と安樂なり
 大業れ修行なり。〜ひ身心〜と〜。由來
 安樂あり〜。於行〜下〜。人〜や〜心存と〜人
 と。又世間の惡業わづらひ名利。當來苦果の〜いあ〜
 也。今生も身とら〜く〜ひあ〜。あ〜ら〜り
 こと〜の〜あ〜んや。ゆ〜業障ごうやうれ〜。と〜と〜
 あり〜。志〜と。我身の安樂と思ひか〜。今世も
 後世も身とら〜ひ〜ひ〜と〜と〜とら〜る〜下。
 わ〜れ〜ら〜。萬劫よ〜び〜ら〜人じん身と〜ら〜る〜
 こと〜。多生よ〜れ〜いあ〜佛法と信〜行せ〜ら〜

事。細るる。流轉生死の業因ハ。あざざとしくあきた
 らびて。是と愛し。出離解脱の方便ハ。ど
 どとどと。あまた倦くして。かたてきくまびんかん
 急こころして。日月れとぶかともさくこど。世事忙し
 て。身命れほごまるとしりまも。無義れ戲論。日
 とく。無益れ雜談。ひりて入く。おむつる光陰
 をねらまび。なほつる音因とあまび。三途れ舊
 里より。ハ難の險岨。まよりん事。慧心。往生要集
 云く。麓強れ煩惱。人として。只無義の談
 話のそと。考ゆ道と障と。道人の詞
 事。とつゆま。げのつら。そそ。学門まで。や
 のつら。いりんや。世間れ事と。嘉祥大師。回法
 僧の学問と。あつて。修行れ。そら。

修行のつら。いりんや。世間れ事と。嘉祥大師。回法
 僧の学問と。あつて。修行れ。そら。百年。命。朝露。非奢。頓爲。道
 緩所。急急。所。緩。豈。非。一生。自誤。耳。文。れ。意。学。を
 行れ。あ。な。かり。緩。か。る。下。行。ハ。出離。れ。要。道。あり。下。一。
 急。な。り。つ。る。こ。ろ。う。う。さ。海。舟。月。を。急。せん。事。海。は。あ。や。ま
 可。し。如。く。なり。南山。れ。宣。律。師。の。云。く。依。教。の。不。意。心。を。
 只。爲。奉。行。若。但。該。文。非。本。意。なり。と。なり。た。じ。四。箇
 の。大。業。あり。教。門。ひ。ろ。た。れ。ど。学。セ。び。ハ。解。行。を。た。ら
 が。く。禅。門。ハ。不。立。文字。れ。宗。念。佛。ハ。一。向。專。稱。の。行。び

二のし母字としひととてぐりび。ゆる志と侍る人。或
は古人の言を愛。学してエまどりてとせむ。
或ハ聖道淨土を分別。是非。念佛の功を全
ぬも。つるも。祖師の本意。よろづび。了りて
西山のつり。道世門の人。もろり。が。り。つ。ハ。雙紙形脇
よ。る。て。学。門。も。ろ。り。れ。淨土門の人の。殊。終。れ。
と。と。び。つ。り。只念佛の学をなして。一向信を立
て。厭雜穢土欣求淨土の心。ぐ。ぬ。く。し。真。實。を
心。を。念。く。母。と。し。も。功。の。か。れ。條。の。ゆる
唯除五逆誹謗正法此文より。か。ぐ。餘。教。と。し。
ゆる。や。ま。り。の。ゆる。も。る。学。門。も。ろ。り。の。ゆる。と。せ。
ゆる。ゆる。ゆる。ゆる。

圭峯禪師云く。解不通達して。る。つ。る。事。なる。れ
ゆる。の。門。も。ろ。り。の。功。も。ろ。り。の。ゆる。と。せ。
ゆる。源。中。も。ろ。り。の。般。舟。讚。の。文。れ。ぐ。餘。教。餘。行
と。べ。ぐ。隨。喜。して。謗。せ。む。一。行。も。功。と。入。り。進。代。淨
土。の。の。中。も。餘。宗。と。し。の。か。れ。祖。師。の。の。し。
の。の。し。ゆる。祖。師。の。意。ハ。貪。嗔。等。の。も。ろ。り。の。し。
念。と。つ。る。も。時。と。つ。る。も。日。と。つ。る。も。懺。悔。と。す。
釈。也。一。心。稱。名。れ。ハ。餘。行。と。す。一。心。專。念。と。す。
行。ハ。只。一。心。專。念。の。し。も。是。と。す。行。體。ハ。只。

きたわらうぞ。武学者は義母の悪ハ凡^ガまたれ位^ガなまだ
 カとよびのぞくべし。餘^{じん}言^んハ雜^ざ行^{ぎやう}也。是^{こゝ}を^し行^はど
 けハ念^{ねん}仏^{ぶつ}と^らう^らし^しび^び失^しが^あと^とま^まて^て。び^びわ^わさ^さに^に是^{こゝ}を
 そ^その^の心^{しん}若^しけ^け意^いあ^あら^らば。餘^{じん}言^んハ懺^{ざん}悔^げま^ます^す。失^しが^あ行^{ぎやう}の^のさ
 ゆ^ゆハ。悪^{あく}行^{ぎやう}ハ迴^{くわい}向^{きやう}ま^ます^す。凡^ガま^ま乃^の位^の母^の失^しう^うなり^{なり}と^とゆ^ゆ
 こと^{こと}故^{ゆゑ}母^の。是^{こゝ}を^し行^はむ^むに^に佛^{ぶつ}教^{きやう}程^{ぢやう}意^いま^まを^をし^しり^り。一^{いつ}向^{きやう}專^{せん}
 修^{しゆ}ハ^ハ中^{ちゆう}意^いハ^ハ凡^ガま^まれ^れ心^{しん}散^{さん}ま^まる^る故^{ゆゑ}母^の。餘^{じん}言^んハ事^じを^をま^ます^すと^とい^いふ^ふ
 一^{いつ}行^{ぎやう}を^をら^らう^うと^とい^いふ^ふは^はな^なら^らう^うに^にむ^む。是^{こゝ}ハ^ハ行^{ぎやう}體^{たい}れ^れわ^わら^らう^うに^に
 阿^あら^らむ^む。邪^{じや}人^{にん}れ^れ思^し心^{しん}ま^まる^る故^{ゆゑ}也^{なり}。真^{しん}言^{げん}乃^の行^{ぎやう}者^{しや}也^{なり}。一^{いつ}言^{げん}
 一^{いつ}對^{たい}て^て悉^{しつ}地^ぢを^を成^{じやう}せん^{せん}と^とい^いふ^ふ時^{とき}。餘^{じん}言^んハ是^{こゝ}を^し行^はむ^むと^とい^いふ^ふ。餘^{じん}
 言^んハ^ハ魔^まと^とい^いふ^ふは^は心^{しん}を^をま^まる^ると^とい^いふ^ふ。魔^まと^とい^いふ^ふは^は淨^{じやう}土^どに^にも^も此^{こゝ}
 地^ぢ想^{じやう}觀^{くわん}を^を邪^{じや}と^とい^いふ^ふ。成^{じやう}せん^{せん}と^とい^いふ^ふ時^{とき}。水^{すい}想^{じやう}觀^{くわん}を^を思^しひ^ひお^おさ^さ
 邪^{じや}觀^{くわん}と^とい^いふ^ふ。例^{れい}と^とい^いふ^ふは^は同^{どう}一^{いつ}意^い也^{なり}。只^{ただ}一^{いつ}心^{しん}水^{すい}行^{ぎやう}と^とい^いふ^ふ
 是^{こゝ}非^ひ偏^{へん}執^{しやく}有^うべ^べし^し。法^{ぽう}は^はの^のこ^これ^れ宗^{しゆ}乃^のと^とい^いふ^ふを^を
 ま^まく^く母^の。も^もう^うよ^よ一^{いつ}を^を凡^ガと^とい^いふ^ふは^は行^{ぎやう}ま^まる^る。宗^{しゆ}も^も
 さ^さし^しを^をま^まる^ると^とい^いふ^ふは^は。修^{しゆ}と^とい^いふ^ふは^は信^{しん}と^とい^いふ^ふに^に。只^{ただ}我^{われ}有^う縁^{えん}の^の
 宗^{しゆ}。我^{われ}ハ^ハ利^り益^{えき}あ^ある^る下^かと^と思^しひ^ひて^て。道^{だう}念^{ねん}有^うて^て。一^{いつ}心^{しん}勤^{きん}
 行^{ぎやう}ま^まる^る也^{なり}。我^{われ}有^う縁^{えん}の^の行^{ぎやう}を^をと^とい^いふ^ふは^は。あ^あら^らう^うも^も我^{われ}
 此^{こゝ}法^{ぽう}を^をま^まる^ると^とい^いふ^ふは^は何^{なに}の^の龍^{りゆう}樹^{じゆ}れ^れい^いの^の。人^{にん}身^{しん}を^をま^ま
 かり^{かり}道^{だう}行^{ぎやう}を^をま^まる^るは^は禽^{いん}獸^{じゆ}と^とい^いふ^ふは^はな^なら^らう^うも^も。ま^まる^ると^とい^いふ^ふは^は大^{だい}欣^{きん}
 の^の樂^{らく}と^とい^いふ^ふ。道^{だう}を^を行^{ぎやう}せ^せび^び人^{にん}と^とい^いふ^ふは^は善^{ぜん}事^じと^とい^いふ^ふ

一^{いつ}行^{ぎやう}を^をま^まる^ると^とい^いふ^ふは^はな^なら^らう^うに^にむ^む。是^{こゝ}ハ^ハ行^{ぎやう}體^{たい}れ^れわ^わら^らう^うに^に
 阿^あら^らむ^む。邪^{じや}人^{にん}れ^れ思^し心^{しん}ま^まる^る故^{ゆゑ}也^{なり}。真^{しん}言^{げん}乃^の行^{ぎやう}者^{しや}也^{なり}。一^{いつ}言^{げん}
 一^{いつ}對^{たい}て^て悉^{しつ}地^ぢを^を成^{じやう}せん^{せん}と^とい^いふ^ふ時^{とき}。餘^{じん}言^んハ是^{こゝ}を^し行^はむ^むと^とい^いふ^ふ。餘^{じん}
 言^んハ^ハ魔^まと^とい^いふ^ふは^は心^{しん}を^をま^まる^ると^とい^いふ^ふ。魔^まと^とい^いふ^ふは^は淨^{じやう}土^どに^にも^も此^{こゝ}
 地^ぢ想^{じやう}觀^{くわん}を^を邪^{じや}と^とい^いふ^ふ。成^{じやう}せん^{せん}と^とい^いふ^ふ時^{とき}。水^{すい}想^{じやう}觀^{くわん}を^を思^しひ^ひお^おさ^さ
 邪^{じや}觀^{くわん}と^とい^いふ^ふ。例^{れい}と^とい^いふ^ふは^は同^{どう}一^{いつ}意^い也^{なり}。只^{ただ}一^{いつ}心^{しん}水^{すい}行^{ぎやう}と^とい^いふ^ふ
 是^{こゝ}非^ひ偏^{へん}執^{しやく}有^うべ^べし^し。法^{ぽう}は^はの^のこ^これ^れ宗^{しゆ}乃^のと^とい^いふ^ふを^を
 ま^まく^く母^の。も^もう^うよ^よ一^{いつ}を^を凡^ガと^とい^いふ^ふは^は行^{ぎやう}ま^まる^る。宗^{しゆ}も^も
 さ^さし^しを^をま^まる^ると^とい^いふ^ふは^は。修^{しゆ}と^とい^いふ^ふは^は信^{しん}と^とい^いふ^ふに^に。只^{ただ}我^{われ}有^う縁^{えん}の^の
 宗^{しゆ}。我^{われ}ハ^ハ利^り益^{えき}あ^ある^る下^かと^と思^しひ^ひて^て。道^{だう}念^{ねん}有^うて^て。一^{いつ}心^{しん}勤^{きん}
 行^{ぎやう}ま^まる^る也^{なり}。我^{われ}有^う縁^{えん}の^の行^{ぎやう}を^をと^とい^いふ^ふは^は。あ^あら^らう^うも^も我^{われ}
 此^{こゝ}法^{ぽう}を^をま^まる^ると^とい^いふ^ふは^は何^{なに}の^の龍^{りゆう}樹^{じゆ}れ^れい^いの^の。人^{にん}身^{しん}を^をま^ま
 かり^{かり}道^{だう}行^{ぎやう}を^をま^まる^るは^は禽^{いん}獸^{じゆ}と^とい^いふ^ふは^はな^なら^らう^うも^も。ま^まる^ると^とい^いふ^ふは^は大^{だい}欣^{きん}
 の^の樂^{らく}と^とい^いふ^ふ。道^{だう}を^を行^{ぎやう}せ^せび^び人^{にん}と^とい^いふ^ふは^は善^{ぜん}事^じと^とい^いふ^ふ

ちん。さき先凡まれば心乃つてまゝの家より後ひ
 ぞと明日逢せん。明後日奉加せん。あんと思はん程に。
 ういあさうらうら。世間公私れをめぐらしたる。あつひま
 ちりく。いじあ。さ事。たう。奉加せんと思ひ。後ん
 人の。さ。そ。此座に。そ。ま。つ。法。下。せ。あ。く。ま。い。ま。え。
 衣ぬき小神ぬき。ひく。ま。く。び。く。ま。方。刀。く。く。
 と。あ。か。か。と。人。奉加。ひ。ま。く。日。來。二。三。十。日。れ。る。の。
 奉加。う。り。と。物。出。來。て。か。ど。なく。造。營。ま。り。り。時。り。
 ちりく。目。出。ら。り。ら。事。と。し。傳。人。り。り。

聖堂法下の施主方のマ

政持明院の法皇凡御子。御孫。は。自。筆。奉。り。初。
 ま。り。つ。た。に。法。下。の。法。皇。凡。御。子。の。御。孫。と。は。自。筆。奉。り。初。
 そ。か。つ。て。由。逆。修。と。か。り。め。ま。ま。て。四。十。八。日。御。供。養。
 何。ま。さ。う。と。の。御。孫。に。進。下。法。下。ひ。り。り。り。そ。え。由。逆。修。何。
 里。及。ゆ。り。行。言。聖。堂。法。下。の。御。孫。は。多。多。法。下。後。宣。也。
 け。ま。ま。二十。餘。座。供。養。有。り。中。に。三。座。耳。
 目。を。行。と。ら。り。説。法。有。り。其。一。座。は。説。法。聽。受。ま。る。
 人。れ。り。り。一。の。施。主。段。は。祇。朝。の。つ。り。て。由。果。報。目。出。
 たり。の。隱。波。れ。由。果。報。目。出。り。り。り。持。明。院。也。
 一。の。施。主。段。は。人。耳。を。行。と。ら。り。り。隱。波。れ。由。果。報。目。出。
 果。報。は。末。代。の。賢。王。明。主。と。て。法。道。と。わ。り。榮。耀。目。出。
 ちりく。ちりく。ちりく。ちりく。ちりく。ちりく。ちりく。ちりく。今。

生いながら一うのりなく一期のさうありさかくさ
 内條終阿くも。内性生ハのさなく。何ごくに切續て
 後生此内果報。目かこころく。世々ごまごま遠
 國へうごまごま也。終つる事。且の内歎と有くごま
 け内なるごまごま吾智識うして。先業のうごまごまご
 懺悔。當果の苦患と思。罪のつらさをおまごま
 ちも終ひて。妙けれひとす。後生此内さめ。淨道
 修とわまごま。往生淨土の素懐と。たごまごまごま
 のりくごまごま。今生後生此内果報。たごま
 目知ごまごま。持明院ハ一期の心もまごまごまごま
 此内出ごまごまごま。此年ごまごまごまごま
 りごまごまごま。後生此内終とわごまごま。素生たごま
 世此内終とわごまごま。二世共ハ内果報。ごまごまごまごま
 ありごまごま。今生ハ一旦の榮耀。後生此内淨道とわごま
 くハ。何のたごまごまごまごまごま。ごまごまごまごま
 也。ごまごまごま。萬人袖とわごまごまごまごま。のちも
 眞實の終ハ。心ごまごまごまごまごま。決定の業とわごま
 事なごまごま。難ごまごま。値ハ。歎と有。至識ハ心とわごま
 りごまごま。干平ハ持者ハ。七那ごまごまごまごまごま。のちも
 たごまごま。説ハ見ごまごまごま。道理とわごまごまごまごま
 ぬごまごま。佛ハ法ごまごま。現世安隱。後生吾不ごまごまごま

りごまごまごま。後生此内終とわごまごま。素生たごま
 世此内終とわごまごま。二世共ハ内果報。ごまごまごまごま
 ありごまごま。今生ハ一旦の榮耀。後生此内淨道とわごま
 くハ。何のたごまごまごまごまごま。ごまごまごまごま
 也。ごまごまごま。萬人袖とわごまごまごまごま。のちも
 眞實の終ハ。心ごまごまごまごまごま。決定の業とわごま
 事なごまごま。難ごまごま。値ハ。歎と有。至識ハ心とわごま
 りごまごま。干平ハ持者ハ。七那ごまごまごまごまごま。のちも
 たごまごま。説ハ見ごまごまごま。道理とわごまごまごまごま
 ぬごまごま。佛ハ法ごまごま。現世安隱。後生吾不ごまごまごま

尸のけまきしと。人の心かゆく、今生れあの一こり
 かりわれど。後生善提の所とめとひくたひ
 那もとあひ。執もあつ世回乃執もとすく。わん
 分れ道理ととあも。身あふたれ時心わくろと
 て。一心も善提乃道もと思入のへ。かたつさ様りハ
 善巧方便もく。難もとあせ。め終つてさかり。ハ
 難ハ世回よハたのりさあり。佛法よるろくハ世回れ
 なりもハ一旦れあひ義當來の苦ハ長劫のうも今
 生れ業も受れ中のよりハ。後生れたの。一と
 覺のよの脱なる。後白川の法皇ハ。千手れ持者ハ。
 七難ハ。わん世回ハ。平家れあり。馬

形後ハ。打。こめ。つ。持。て。今。取。り。か。く。も。と。あ。ん
 内乃法阿りろろ。一期乃淨外れ中ハ。餘念なく
 眞實ハ。善提れ妙因もとなりわん。と。そ。と。約。所。
 此難ハ。即佛道ハ。むじけてハ。淨脱なる。後生れさろ
 とな。ぬ。程。乃。さ。く。身。と。さ。ひ。け。く。眞。實。乃。道。り
 入方便れ。あれ。今。生。と。と。の。つ。う。た。の。と。あ。る。利。生
 かわ。へ。執。心。を。端。く。深。美。と。わ。り。さ。ん。か。つ。方。便
 とりて引導と。故。七難ハ。あ。ふ。よ。そ。是。れ。愚
 推也。と。と。ハ。仏。も。と。神。も。と。は。さ。ん。人。難。と。あ。り。と。さ
 つ。ひ。と。さ。く。ん。時。佛。神。と。う。ろ。ひ。ろ。事。何。ろ。く。ハ
 い。ろ。ろ。方。便。も。あ。ん。又。業。力。も。く。神。力。業。力。も。く。

移た。而方便とてよむぬも。又信心まことなく。仍舊と
よむぬも。そし思ひて。我身とる海一め。我心とるげま
とる。よみぬ人とも。ひばとる。ひ。非とる。
佛とる。佛事者ふくむ。

榮朝上人の祝戒の事

上野國新田庄世良田に於て。新圓房乃律師。榮
朝上人の慈悲ゆゑ。智恵とてく。て。顯密とてく。
學。説法説戒。とてく。とてく。とてく。也。迦國の道
俗。歸依湯仰。とてく。聽。或時。説戒。我國
邊地。て。仏法時。とてく。也。如法の僧。なる。也。

家の二衆。ハ。優婆塞。優婆塞也。其位に。とてく。て。六戒
八戒。とてく。たり。千戒。具足戒。菩薩戒。なり。たり。に。
出家。乃。く。とてく。なる。也。戒。も。たり。なり。なり。
一。學。とてく。とてく。とてく。とてく。俗。とてく。とてく。出家。ハ。三衣。一鉢
とてく。持。とてく。戒。とてく。なり。也。其。とてく。定慧。の修行。顯密。禪
教。とてく。とてく。とてく。とてく。三國。の風儀。とてく。とてく。とてく。
細。り。は。我國。とてく。上代。ハ。鑒真。和尚。唐朝。より。來。て。如法。受
戒。乃。作法。とてく。とてく。とてく。とてく。唯。髮
とてく。とてく。衣。とてく。深。て。受戒。とてく。とてく。戒壇。とてく。とてく。とてく。とてく。
とてく。とてく。とてく。化制。れ。とてく。とてく。とてく。受。隨。れ。とてく。

色ももも人としてびりく膳次とくひつてつて
 信施とくく僧れと國よとてつりさつりまはくは異類異
 歌の法師世間に多しなほ一にわに佛弟子の若
 とけあし。或は妻子と帯し。或は杖をよこし。持
 とれり殺生偷盗なまびとみ事あり。これ
 まはに布薩なんし。み事ハ若ともあし。若者も
 あり。此座よとんてゆつり。男しとみまをさひげに
 加衣沙衣に似つるものけし。又烏帽子もあし。と
 童もあし。法師もあし。さつりもの候ぞ
 や。山外れありつるとんてのけひを僧ともハ
 けふ心のさなる事。のけひのうか。山外ハとてし
 一と物派あさまり。さつりなりと思ひあり。さつり
 ぐと真實の慈悲とて悪口れ心かて佛法の
 道理と。思ひてとてけひつる故。その感ありて。此
 山外方丈へ系して。今日佛説戒聽受仕修へは
 けり。さつりつら。佛法のよし。さつりひて。さつり
 らひ。いづく傳てこと。まめや。思ひ入る。氣色よえ。
 うらぐとれな。し。し。し。持齋して。此
 寺にかせし。とのけひなれ。ゆるく。ゆるく。やせ
 遁せし。彼徳もゆるく。山外と宿習あり
 けり。あつて。し。し。し。

結説房の説法のり
 十六

法源に結説房といふ説經師有る。隨分辨説を
僧也。隣に法酒家の徳人此尼を有り。結説房に
よめ。此愛酒の上戸にて。布施物をりて。一向酒を賣
てのそり。或時此尼云佛事を成せりて。結説
房と導師は結説也。此過れ者是とて。結説房
みり。此尼云此けと有り。此罪よ。あま
はよりりて。思惟となり。今日此説法の成りて。此
さけに水入て。此罪なり。海に修りて
とて。結説房者此修りて。此法師を
好して候。今日日素乃本懐。ひりて。佛
佛經の釈。大方に有り。桶に水入。罪障

を勤。あつて。が。い。わ。く。と。事。まで。う。ま。い。ん。と
思ふ。い。わ。く。と。い。は。り。て。説。法。と。り。て。尼。云。其。邊。乃
聽。流。まで。これ。び。あ。つ。て。大。なる。桶。酒。と。入。て
取。あ。く。と。い。ひ。結。説。房。一。座。せ。り。て。さ。ら。な。り。上。て
乃。と。り。此。尼。云。あ。ま。い。く。作。ひ。り。事。う。酒。り
水。つ。く。い。罪。よ。く。作。ひ。り。と。さ。り。作。ひ。り。な。は。し。と
つ。よ。水。れ。と。う。入。り。だ。う。い。今日。い。は。り。て。さ。く
あ。ん。と。思。惟。に。結。説。房。一。と。の。て。い。は。り。ひ。ま。ま。い。
い。は。り。は。ら。ん。感。どう。と。思。う。と。や。わ。ら。日。素。と。ら
と。水。と。さ。さ。り。と。て。候。け。り。と。さ。い。は。り。酒
と。さ。さ。水。と。い。は。り。と。云。ひ。ま。い。と。作。ら。ん。酒。に

念佛くさるま念なるべし。がしてさた人也。苗の
 草もまきりとりて長せあがしむ。妄念れまより
 善苗ハ長せさゆ也。凡心と摩一あよして。妄業とかなる
 ば。一切ハ佛法よそむくべし。かゆ邪見凶代さうり
 たり。かくのじとされたがひれあはん。國ハ災非事之
 一と。佛頂經よみんてさうり。くくおさゆべしと。
 たとひ破戒されども。正見なる人天の師となる持
 戒かたれとも。邪見なる人國のあさかりとさうり
 有所得れ説法の事

邪命説法と云名目。佛藏經よみん。有所得と
 とさうり。同し事人。世間の人が有所得といふハ布

施とのをもとむ。とゆ説法と思つり。經中よハ諸法
 實相と云くべし。有所得の法と説て。無相の理と
 とうがゆハ邪命説法也。有所得れ道理とさうり。さ
 うゆ。有所得とさうり。かゆ説法ハ。三十六十世界乃
 人の眼とさうり。さうりも罪なり。又日夜よ十悪とほ
 ろろあがりも。かりり。罪也。十悪とほらうり。あをむ。人
 是を師とさゆ。其身苦。墮とともいふとも。人と引
 ておくとも。あ。有所得の説法ハ。人として。生死
 の業をまよ。實相の理も。さうり。さうり。さうり。さ
 まりて。布施の希。名利のため。あさ。さうり。さ
 らん。だ。正法念經。母ハ。名利の心なく。して。利

他乃思ひは住し法を説くは上品に法施勝他の
 心より説くは中品の法施也。名利のありて説くは
 下品の法施なり。天上の智慧の鳥となりて法音
 とて説くは上品なり。此の法をありけり。心直り説
 て。も利益を思ふもや。佛藏經の説は實相の
 違ふも世間の福業の事と。菩提の道に
 此經に我無量阿僧祇劫に値て供養せり。多劫の間
 只轉輪王の位をたて。菩提をたて。諸法實相を
 説くりて。我佛となせり。説くは説く。さきも有
 相の福は。次乃生母威勢ありて天に生ず。若し國に
 大臣長者ともあり。眞實の智慧道心なく

て威勢ありて。生を慍執し。罪業を説く。

て第三生より。思道に入なり。著相ありて。

福とて。心道に助。執心ありて。吾と彼と。出離

ありて。福業の道とて。心道に助。二れ也。

著し有る。心道に助。佛

藏經に。道人の心道に説法。人いふも。無相

の法門と説き。心直りて。我が非とく。心直りて。

因果とて。心直りて。才輪經に。未だ正見僧とて。

我身非法也。心法に道理と正直に説く。菩提因

果とて。生死涅槃の差別と説く。福田とて。

心直りて。心直りて。心地觀經とて。此人の心。僧家とて。

下とつり。羅什三藏濫行カよりて後。寺に過カり。任カして。漫カ夜カとを。説法の度カで。いふ。我身カの泥カのど。我知カの言カ。蓮華カれど。こそ。一カの。ま代母カの我身カの非カを。あつて。持戒カの人と。いふ。か。りて非法カれ。約カと徳カと思カひ。道俗カよ。ひく。自カ歎カ。濫行カ非法カに。一カく。放逐カを。う。人カ。一カ。福田カの徳も。あつて。い。心カ。あ。し。人カ。聖教カに。よりて。我非カと。か。り。事カ。一カ。う。も。天人カ。南山カ。大師カに。よりて。破戒カの人と。ま。わ。つ。と。い。ふ。佛カ法カを。ひ。め。ん。と。つ。り。是カは。正見カの。僧カ。より。一カ。邪見カ。なり。と。利益カを。あ。り。天人カ。何カ。を。是。と。い。ふ。か。

袈裟の徳カの事

玄文永七年七月十七日。尾張カ。國カ。下津カの宿カ。雷カ。お。り。く。道カ。ゆ。く。馬カ。三カ。走カ。け。換カ。して。小家カ。より。一カ。里カ。入カ。り。こ。ひ。く。い。り。さ。り。く。と。く。り。く。り。て。あ。る。法カ師カ。れ。せ。か。り。り。に。く。さ。あ。り。て。と。こ。ひ。く。と。い。ふ。ん。く。ま。う。さ。う。さ。て。り。さ。と。い。ふ。と。換カ。せ。法カ師カ。を。換カ。つ。か。あ。り。り。り。次カ。れ。日カ。事カ。の。縁カ。有カ。て。あ。の。道カ。過カ。り。く。だ。し。く。た。ま。う。り。つ。り。つ。り。木カ。思カ。録カ。れ。り。め。う。り。く。年カ。号カ。日カ。月カ。を。ま。る。く。ゆ。り。十カ。梯カ。經カ。悲カ。華カ。經カ。大カ。悲カ。經カ。心カ。地カ。觀カ。經カ。等カ。に。袈カ。裟カ。の。功カ。徳カ。を。い。く。説カ。り。り。誠カ。ま。う。そ。う。ま。う。て。お。と。り。く。つ。さ。ま。り。く。び。從カ。經カ。の。中カ。母カ。の。如カ。法カ。の。り。さ。ま。り。り。て。其カ。功カ。

終あり世間の小袈裟衣如法ありとも。海名六に今この
 徳あり。是も大集経母にひきかきしりや。之に
 うまの徳有べしと。凡そより心地観経よりひきかき
 一とらんと身に帯りし。大海とよらり母毒
 龍等の難あり。龍宮の門よりひきかきし。金翅鳥
 の難とよらり。舍利とよらり。事向し。袈裟
 四守とよらり。海軍中よりして難なり。とよらり。
 十指経より。或國王比丘の非法あり。よりして。是とよ
 かりて。鬼神の有り。流し。此より。鬼神とよらり。
 此より。食せんとよらり。母鐵鬼とよらり。是ハ佛牙
 あり。

して。我々袈裟衣とよらり。此者あり。解脫の
 期ありて。佛となり。ついで。毛とよらり。とよらり。傷と
 説て。おろし。とよらり。食せんとよらり。制止
 して。繩とよらり。とよらり。とよらり。葉とよらり。ひく。を
 一。な。七日す。とよらり。玉のは。行て。乃ら。命とよらり。文
 たり。とよらり。事。此。次第。とよらり。玉に。奏とよらり。鬼
 難に。袈裟衣。徳とよらり。や。とよらり。佛。弟子とよらり。とよらり。人
 倫。して。信。敬の。心。なり。とよらり。とよらり。とよらり。懺悔して。
 め。とよらり。とよらり。とよらり。とよらり。とよらり。堅。誓。師。子。とよらり。云
 て。金。志。の。文。あり。師。子。あり。とよらり。獵。師。あり。とよらり。とよらり。師。子
 とよらり。皮。とよらり。とよらり。王。に。身。とよらり。とよらり。とよらり。とよらり。師。子。

男子だも、思進は、ひくは僧おはらうかきして、
ど。こまきとて、獵師に、いふは法師となりて、毒のち
葉と、びきれ肉もくくして、或時彼師おれりて、
僧のうらりと、んて、なう、ひきて、尾と、うりて、
あ、と、葉と、あ、さ、あ、して、是と、つる、師子、ま、う、り、
う、り、と、あ、り、て、な、う、り、て、な、う、り、て、な、う、り、
り、と、う、り、て、な、う、り、て、な、う、り、て、な、う、り、
此、縁、は、わ、れ、佛、よ、な、う、り、て、な、う、り、て、な、う、り、
い、と、う、り、て、な、う、り、て、な、う、り、て、な、う、り、
に、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、
又、南、山、大、師、に、威、施、將、軍、く、り、な、う、り、
漢、土、の、僧、は、天、竺、より、慚、愧、の、心、あ、り、て、
な、う、り、て、な、う、り、て、な、う、り、て、な、う、り、
一、に、德、を、あ、り、て、な、う、り、て、な、う、り、
あ、り、て、な、う、り、て、な、う、り、て、な、う、り、
上、四、十、萬、里、也、諸、天、は、清、淨、な、り、て、
犯、戒、れ、人、と、は、魔、よ、あ、り、て、な、う、り、
守、り、と、い、つ、り、人、れ、親、の、慈、悲、を、あ、り、
も、て、と、い、つ、り、德、を、あ、り、て、な、う、り、
非、あ、り、と、い、つ、り、戒、を、あ、り、て、な、う、り、
仏、法、よ、り、功、を、あ、り、て、な、う、り、
宣、衆、を、あ、り、て、な、う、り、

又南山大師に。威施將軍くりなうり
漢土の僧は天竺より慚愧の心ありて
なうりてなうりてなうりてなうり
一に徳をありてなうりてなうり
ありてなうりてなうりてなうり
上四千萬里也。諸天は清淨なりて
犯戒れ人と。魔よありてなうり
守りといつり人れ親の慈悲をあり
もてといつり徳をありてなうり
非ありといつり戒をありてなうり
仏法より功をありてなうり
宣衆をありてなうり

て。ぬらうがと。はまそく守法よと。俗土は。且れふと
のこらうく。そとと徳とあらひ。わかうらにこそとそ
我。律の中。お。僧。ハ。梅。檀。に。して。又。蒺。藜。也。と。つ。へ。も。
徳。と。入。て。こ。ま。と。何。が。び。と。梅。檀。に。と。く。へ。たり。
過。と。入。て。こ。ま。と。何。が。び。と。梅。檀。に。と。く。へ。たり。
上。の。諸。文。ハ。皆。如。法。の。袈。裟。衣。如。法。の。比。丘。犯。戒。よ。う。て
論。じ。我。國。の。作。法。た。か。し。と。そ。り。衣。と。そ。め。な。う。ら。
如。法。の。衣。鉢。と。そ。め。な。う。て。受。戒。と。て。戒。壇。走。め。ら。う。と
ま。し。と。二。戒。と。と。も。い。ひ。び。き。れ。徳。も。何。と。い。ひ。や。ぞ
是。ゆ。り。お。雷。神。世。間。の。小。袈。裟。衣。の。如。法。な。ら。ん。里。法
師。の。僧。と。い。ふ。べ。き。と。い。ふ。と。何。と。い。ふ。と。た。と。く。せ。め。え。

法石三 上

袈。裟。衣。の。徳。の。し。と。い。ふ。也。何。と。い。ふ。と。も。い。ふ。と。い。ふ。と。也。
經。の。中。お。金。れ。た。う。と。圓。ハ。銀。と。以。て。寔。う。銀。の。な
ら。ん。圓。お。銅。と。以。て。寔。う。乃。至。白。銅。ま。で。寔。お。う。と
如。此。得。道。待。定。持。戒。れ。比。丘。な。ら。ん。圓。ハ。有。戒。無。戒。を
ま。し。と。い。ひ。か。ら。れ。何。と。い。ふ。と。何。と。い。ふ。と。堅。
誓。師。子。心。な。ら。ん。内。心。の。得。失。を。入。ん。ひ。と。外。相。と。何
が。び。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。邊。圓。也。如。法。の。僧。寔
も。ま。し。な。ら。ん。張。圓。中。鳩。と。云。ふ。は。道。世。乃。上。人。寺。と
遠。立。一。で。僧。ハ。六。人。止。住。一。也。如。法。の。衣。鉢。か。ん。や。常
一。多。け。り。其。可。も。古。木。れ。大。き。な。ら。ん。と。道。營。れ。と。あ。た
ま。り。た。ゆ。も。寺。ら。う。に。在。家。人。よ。樹。神。付。て。や。け。ら。る。

細く此本として家にあつてとむ。情なく僧の
より終つたあさうし事也。制止まのうせてた
ひあうし僧より付てまうつまもせぬ。それらの
とくせじごさやあつて之で殺る僧は袈裟衣
の風もあつたり。陀羅尼の教もさうしてこそ苦患
またあつた事なま。僧といふくも惱したく
けらん。さうくもてまも云はれを。僧共さうてさう
あつてり。び事六十餘年。前之。同一。國味鏡やま
あつて。まもさうもたつた。或僧本と切て。堂の修程よ
と僧共。あつたまて人。付て。樹神なびさうり。僧はた
そり。のまもさうも也。制。せやうひるまもさう

文永年中れ事也。心あらん。佛法は結縁ひあ
つた事と信じて。袈裟は徳。解脱の期もさう
とまもさうて。一旦れさうさう。まて。長時れ苦さう
あつて。袈裟衣とさうあつた。の者。誦勒佛さうり。のら
うらつた。佛出世あつて。むに得道もさう。まて。さ
うさうも。現在の千佛。後の禮至佛の時。一人もあつ
て。得道もさう。と。經文分明也。仰て信もさう。佛
牙あつた。さうさう。有戒もさう。何も無戒もさう。あつ
た。億れ佛。身さう。血と出と。母すさう。さう。さう
さう。さう。野大師の法。殺盗と。あつた。者。現
る。衣食れ利と。人。と。謗法と。謗。あつた。の。まも。あつた。

く。何の益^{まさ}ありとつとつ終つら。びやも當來の苦^く何^なもこと
も。殺^{ころ}盜^{たう}を眼^{まなこ}前^{まへ}に利^りも。人法^{にんぽう}と謗^{ぼう}どつら。二世^{にせ}に利^りな
く。し。長劫^{ちやうきやく}の苦^くまゝぬも。は。罪障^{ざいじやう}をたそむらん人。
終^{つひ}く。つとつねも。道^{みち}終^{つひ}く。下^{した}。妄情^{まうじやう}をりしひまう。か
て。金言^{きんげん}をうらうらふ事^{こと}なり。し。

沙石集卷第六上終

沙石集卷第六下

目錄

正直の女人の事

正直は俗土の事

正直の人寶と得事

芳心有人の事

亡父夢^{むすふ}を子^こに若^{わか}く教^し物^{もの}をなすと事

母のくあり忠^{ちゆう}者^{しや}有人^{あるひと}の事

盲目^{まぶら}れ母^{はは}と養^{やしやう}事^{こと}

身^みと賣^{うり}母^{はは}と養^{やしやう}事^{こと}

新^{あらた}結^{むす}して母^{はは}の生^{なま}なと知^し事^{こと}

君は忠まろく榮事
師の禮有事

海名集卷第六

下

正直の女人の事

凶比奥列の武山寺に別當なる僧。がそと造之せ
ひと年来思ひ合はせり。金とみす。ぬりぬり
ろもへてふひよりひて上階。たれかとも。後河の國
悪中の宿より。新の水阿比。たの家より。いふらと
まひも。菊川。そ思ひ。こり。は。は。あ。さ。ら
し。り。な。わ。と。か。あ。よ。び。今。人。れ。物。ま。を。な。り
ぬ。め。帰。て。は。ぬ。と。も。何。と。思。ひ。て。上。階。で
ひ。り。く。も。思。ん。と。本。意。か。う。そ。と。か。さ。ぬ。と。の
か。さ。と。さ。さ。さ。ま。り。て。ぞ。り。り。は。さ。そ。中。ま。

宿しそ下人よは家こしそそるもこしひてだへく
 ととりたれど家れ内母よりこも人ちりて何事と
 修しゆくそやう上洛の時物とよひまこりて
 け内宿にそく作事とりたりとつなふよと所
 目ひま作事かと同そのそこあてて馬よりれ
 目そちかくれ物とわうして金とみ十あへてけ
 守袋とよひまこりたりとありけまうはこりたる
 目よりそちりてとそちてめこりて
 よく取出してそちけまはちまりれ事より
 何さまこりたりとそちこれいそち物とこ
 と十あひまのこちんといへて十ありとこみ十あひ
 けりそちまのこち候は佛の物といぐわ
 けりつとこひひきこ中こちりてけまゆは
 ちび上洛してかき思ひれとて造立してりり
 まふ比女とたつて杯のちりてかちりり
 ぞなんとかちりてひちりけまを系れ者よそゆり
 があこちり者ちりてゆりて下して侍
 れのわちりて思ひにけ宿に二五年
 すとゆりてとていづくも甲のちりて
 けちりてとていづくも甲のちりて
 世間よりとてとてとてとてとてとてとて

と十あひまのこちんといへて十ありとこみ十あひ
 けりそちまのこち候は佛の物といぐわ
 けりつとこひひきこ中こちりてけまゆは
 ちび上洛してかき思ひれとて造立してりり
 まふ比女とたつて杯のちりてかちりり
 ぞなんとかちりてひちりけまを系れ者よそゆり
 があこちり者ちりてゆりて下して侍
 れのわちりて思ひにけ宿に二五年
 すとゆりてとていづくも甲のちりて
 けちりてとていづくも甲のちりて
 世間よりとてとてとてとてとてとてとて

法苑珠林

下

三

具也。猶下下。世間ううしてだの。心なく。當時わやと云くも。上古より。直の賢人あり。文永年中。此事を。直に。或人物。随喜の心切に。心なく。世を。盗賊も。非分の事。なく。失ふ事。なく。佛と。直の者。天。曲の者。實是。桐林。親本。正直。佛陀。見我。

正直の俗士の事

唐の育王山也。或僧二人布施とありて。ふびと
し。りりり。其寺の長老大尼の連和尚此傳と
ららあめて云く。有俗他人の銀と百あわづらとく
とさ。りりり。彼主死。其子。是とありて
子。是とさ。親とぞに與ふ。て。これ。物
とく。その物なる。云。彼俗。我。あづら
ら。り。也。あづら。なる。親。抱。ひ。り。あ
なり。して。又。一。た。ひ。あ。ひ。て。さ。と。
て。官。に。判。断。と。あ。た。た。賢。人。なり。云。所
り。と。り。寺。に。て。亡。者。の。善。提。を。

世俗塵勞の俗士に於て利養とひさかた。ソんや割
別出家の沙門。何ぞ世財とありて。法に
ま。り。て。寺。と。追。か。り。未。代。の。在。家。の。富。貴
た。り。著。と。信。も。何。り。禮。も。あ。り。出。家。の。貧。賤
あ。り。貪。欲。ぬ。く。智。と。な。く。徳。も。あ。り。あ。り。ひ。布
施。と。れ。り。て。導師。と。り。あ。り。ひ。行。禱。と。事。と
て。財。産。と。り。権。と。威。と。の。利。養
恭敬と心とを故に。釋子の風にそむき。出家の義
とく。び。王。の。友。に。出。家。人。の。頭。と。ぬ。く。白
衣。と。り。と。滅。後。遺。弟。の。沙。門。に。破。戒。

して恩教よしとら。在家の人の善と修し。出家と供養
し。出家の教導にうりて。天母生びて。さきやこも
佛の説法ひるも。かえりて。衣もまらて。教よとら
び。道よむとじて。なごり。如衣ぬ衣の下に。人
行し。福田の中。荆棘と生さんや
正直の人實と得事

近年帰朝の僧れ説きて。或人の修りし。宋朝に
名し。さま婦あり。餅と賣て。世とわたり。なり。有
時道のやうりあり。餅と賣る。人れ袋とわ
し。うり。袋と見ゆ。銀れ軟挺六あり。なり。家
あり。うり。心とれ。物なり。者として。とれ。ハ
あり。やむ。し。ん。と。わ。し。ま。事。也。ま。ま。と。う。づ。ひ。て。さ。う。せ
し。と。云。男。も。さ。か。し。と。ま。あ。ま。の。く。さ。ま。た。れ。ん。ま。ま。と。云
者出。ま。あ。ま。を。と。めて。悦。て。三。と。も。な。ま。ん。と。つ。ひ。と。
と。て。ま。ま。と。わ。り。な。り。時。思。ひ。を。り。て。煩。と。つ。さ。ん。と。
め。た。と。ら。し。と。わ。り。し。に。六。あり。と。不。審。な。事。二。の。ハ
く。さ。ま。と。う。り。や。と。云。ま。ま。事。なり。と。わ。り。六
あり。二。の。ひ。さ。し。ひ。ら。ん。地。なり。何。し。ま。や。う。り
む。ろ。う。し。と。ま。ま。と。う。り。と。う。り。と。う。り。に。修。し。て。
と。て。二。の。の。守。の。り。と。わ。り。て。是。と。と。つ。し。と。う。り。四。の。守
眼。か。し。と。者。う。り。と。う。り。と。う。り。不。實。れ。者。也。う。り。と。う。り

あは直の者とはあつて。不審なりけむ。彼業
とめして。別の事にて。其の事おとたつたり。判
まがしとめしつる。此は業も直の者とはして。判
して。よくまじふ。此に直な事。此は業も。判
こやして。まじふ。者出素は。まじふ。とす。わ。
い。よく。其の事。此に直な事。此は業も。判
らぬ。今。わ。と。其の事。此に直な事。此は業も。判
こ。よく。まじふ。此に直な事。此は業も。判
こ。よく。まじふ。此に直な事。此は業も。判
ちりか。まじふ。此に直な事。此は業も。判
此に直な事。此は業も。判

た。よく。まじふ。此に直な事。此は業も。判
直。よく。まじふ。此に直な事。此は業も。判
こ。よく。まじふ。此に直な事。此は業も。判
罰。よく。まじふ。此に直な事。此は業も。判
た。よく。まじふ。此に直な事。此は業も。判

芳心有人此事

武。よく。まじふ。此に直な事。此は業も。判
縁。よく。まじふ。此に直な事。此は業も。判
洛陽。よく。まじふ。此に直な事。此は業も。判
して。よく。まじふ。此に直な事。此は業も。判

かりてその地頭世間をわたりて一民の身はるゝのみ
 一人ありたり子息財宝も不領もたりのことゆづり
 及びびひさしくすひ者をしてゆるりなほさるるが二
 門ひらき者としてどくくきりたりよかひありま
 て今とつぎたり。そとそとれ小君なるもひありま
 づ。思ひあつる事までいなりたり。さるるま
 りもつりたり。二門の者た。うりありて。不
 分の。そとせがしれ息。ゆとひとてゆる事。不
 の成才也。彼親の不領買する人の苦心も有り。慈悲
 ありたり人。世間不足ありき。どのく列参して

といふまは。二門ありて。ゆとてたり。ありたり
 いめんて。酒とめなると志なり。許訟してさるる
 一門列参は。とつりといふ。何奈事。いといふ。ま
 めとて。作とて。と。し者。若。二門。作
 一。世間不測ありて。まの。不領。と。く。活却仕
 たり。是れめとて。作と。ま。活り。と。彼子息。乃
 只一人。候。が。と。ひ者。と。と。不役。に。好。と。と。も。
 との。く。が。身。と。ひ。ひ。なく。と。見。た。と。と。と。
 及。う。び。其。親。の。か。と。に。も。彼。不。領。の。中。に。な。数。二。不
 思。食。あ。て。ま。せ。活。ひ。な。ん。や。面。と。は。各。所。使。と。と。と。じ
 里。と。り。と。と。と。好。作。り。ん。と。と。と。と。に。其。殿。と

づゝはう。一。し。を。が。や。う。よ。是。は。相。具。し。て。茶。を。て。
と。を。も。便。宜。と。う。う。ひ。て。右。右。な。く。う。さ。ひ。と。い。え。
い。は。是。一。し。を。茶。後。と。め。お。て。う。い。は。と。だ。の。
り。け。も。ぞ。を。を。は。ま。そ。う。い。ひ。て。後。来。と。て。酒。を。
の。く。引。出。物。ま。の。う。ち。ん。と。て。肉。入。は。く。ま。び。く。り。
買。取。と。り。文。書。と。皆。そ。く。を。く。あ。ら。ま。に。な。が。し。り。子。息。や。
し。そ。た。の。ま。も。く。め。と。云。ひ。ま。ば。あ。ら。う。り。思。ひ。の。事。
あ。ら。ま。ま。さ。て。そ。あ。り。は。な。は。は。あ。ら。う。り。思。ひ。の。事。
思。ひ。も。う。り。作。づ。い。え。各。扱。て。ゆ。り。ぬ。さ。そ。被。み。ま。く。
款。と。も。ま。ま。と。も。一。筋。よ。あ。ら。へ。て。當。時。あ。り。と。も。
ゆ。末。代。と。も。は。も。の。う。ら。ま。の。あ。ら。う。り。思。ひ。の。事。

一。故。葛。西。の。壹。岐。の。前。司。と。つ。ひ。ハ。帳。文。は。を。
し。も。く。弓。紫。の。道。ゆ。り。一。也。榊。田。左。衛。門。世。と。い。
た。り。一。時。葛。西。の。兵。衛。と。い。ひ。て。あ。ら。ま。り。て。鬼。
こ。め。れ。や。う。な。り。一。榊。田。二。門。と。わ。り。ち。り。一。たり。
一。武。士。也。心。と。た。り。く。榊。田。も。有。り。は。人。也。故。鐘。舎。の。
右。大。將。家。の。時。武。蔵。の。江。所。子。細。あ。り。て。彼。江。所。を。
め。り。て。葛。西。よ。と。び。ひ。つ。と。葛。西。の。兵。衛。一。も。は。も。
ゆ。ま。ま。と。ふ。ひ。り。作。は。あ。ら。ま。り。と。さ。者。は。と。も。う。う。ん。
あ。ら。ま。り。身。一。は。と。も。く。て。と。作。は。あ。ら。ま。り。一。は。所。
あ。ら。ま。り。作。は。あ。ら。ま。り。一。は。人。と。も。ま。ま。り。

廿五

思ひん。いゝなるひあゝふてと思ひて
日來とんふ。或時彼僧。大なるさうありて。まるとふ
つご事しむけつに。若き未尉をたしとひひて。
檢斷しむ侍に付付く。此科料に七也四丈の縮
とやゆつとん付。八金坊しとま。まのうとん付と云
て。さうよめとなるとも下知しとら。さて若き未尉
ひひつとと。さうこれ偽也と云。此僧七也四丈とこ
そまのうと也作め。此にくとどの心もさうなくさめ
くとしりつと。まは心と知て。縮とまのうとせし
経は不審抄うとありと。たつとと。まのうと
かんと云ひて。さうつとありてありて。さうも檢

る。ことうも縮と進とて。そ行しそいよとと。
行して取て。つと。共に成さしと。そ彼にし今ま
有。近代の妙。於人。有。つと。そそゆと。
一 奈良の朝に八金橋とさうしゆ。當時も東
圓堂の前のあり。當初時の右。上東門院。奥福寺の
別當に依て。彼橋とつ。いよはありて。車に入と
まのうと。えと。大元れ中に見あり。事つの子細と
と。いよ。さうくと。さういよ。名と得。さうと。左
右なく。ま。さう。別當。さく。不當。むか。事つなり。
且。ハ。色。となり。右に依。なり。ま。さ。こ。是。程に。さ。本と。

いそぐ進むとて。とくめわけて。なぐて。貝かた。大元も
 しかして。おそめ。別當とて。とくめ。とて。とて。とて。とて。
 あり。此事。より。て。い。か。う。の。重。科。母。お。な。り。ま。
 ち。我。身。張。本。に。出。て。一。を。云。り。此。事。女。院。や。名。
 て。奈。良。法。師。の。心。な。り。者。と。思。ひ。し。ま。は。り。あ。り。あ。り。
 大。元。也。ゆ。し。に。色。ゆ。り。と。て。さ。う。は。此。さ。う。と。は。
 我。橋。と。あ。つ。た。ん。と。て。伴。実。國。よ。余。野。と。云。庄。と。よ。
 也。と。花。と。さ。れ。庄。と。名。付。て。塙。と。せ。さ。ゆ。り。れ。花。
 の。さ。り。七。日。宿。直。と。て。是。と。ゆ。り。せ。さ。り。い。ぬ。
 り。の。庄。寺。領。と。る。ま。じ。り。と。い。ふ。ゆ。り。と。い。ふ。
 事。ゆ。り。と。い。ふ。

七父妾にゆれば借借物とて事

中比武列。さうい。ま。つ。う。さ。程。に。と。て。た。う。ひ。り。
 つ。ひ。に。さ。り。俗。有。り。一。人。は。ま。つ。う。一。人。の。あ。り。
 な。り。ゆ。り。と。い。ま。し。は。は。借。物。な。ん。と。云。り。さ。う。と。
 の。に。死。去。し。て。後。二。人。の。子。共。親。を。れ。じ。つ。び。り。か。ご。
 と。つ。ひ。り。さ。う。と。い。ま。し。は。一。人。の。ゆ。り。と。い。ふ。ま。
 見。り。れ。七。父。妾。と。て。な。り。の。な。げ。り。と。い。ふ。さ。う。と。
 て。つ。ひ。に。ゆ。り。と。い。ま。し。は。の。物。と。つ。く。と。い。ふ。か。
 か。さ。う。と。い。ま。し。は。の。世。と。い。ふ。と。い。ふ。ゆ。り。と。い。ふ。彼。子。息。
 の。り。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。親。の。時。れ。り。
 の。り。と。い。ふ。子。細。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。事。ゆ。り。と。い。ふ。

内憂にうつろひつゝ。さそひ不思議な事か。然し
 のそら真敷のこゝろ。汝はして。彼子息のり。之が
 親子御ゆるま。この傳相。汝はして。まづするはし
 ー。まづり。り。が。の子息の。む。り。ま。づ。れ。を。い
 め。い。り。そ。う。我。身。よ。お。結。ぶ。ま。何。の。世。よ。そ。を。れ。が。ー
 が。父。責。ま。の。う。せん。う。へ。の。又。う。ま。ひ。て。結。ぶ。へ。う。に
 と。そ。を。ー。り。り。又。行。ー。ん。ー。ま。り。さ。う。ん。く。い。せ
 む。く。さ。う。こ。ー。ま。の。う。せ。ぎ。ん。よ。つ。さ。て。し。た。何。の
 世。よ。そ。い。せ。の。う。結。ま。る。う。結。之。親。の。な。り。歎。と
 産。と。あ。ま。れ。つ。け。と。た。ぐ。ー。と。思。ひ。な。り。ま。け。さ
 う。の。結。ん。た。又。や。り。り。り。又。云。り。の。親。の。事。と。れ
 り。と。思。ひ。の。こ。り。ー。と。お。も。う。う。ー。の。結。と。と。し
 つ。ぬ。つ。ぬ。ー。う。ん。ん。ま。ま。ま。の。世。う。く。親。よ。う。そ
 う。と。さ。う。く。思。ひ。と。家。よ。そ。我。身。よ。結。ぶ。ま。事。作
 け。い。と。く。せ。ー。り。り。り。多。く。回。答。往。復。して。事。也
 う。り。り。の。也。ハ。鎌。倉。よ。上。て。對。決。ー。り。り。奉。行。の
 人。と。り。始。と。上。の。下。の。也。中。の。ふ。と。づ。ひ。が。う
 め。づ。ー。く。後。か。り。汝。決。の。ま。う。さ。う。び。至。孝。の。ん
 ざ。ー。と。さ。う。く。世。間。の。し。つ。り。も。い。と。さ。ま。ん。お。せ。ら。う。ま
 ー。と。さ。う。く。が。め。れ。く。ち。り。り。ま。心。あ。う。人。ハ。涙。と。な。り。也
 て。ぞ。感。ト。く。か。さ。て。件。凡。物。と。ひ。て。兩。人。れ。七。又。れ。善
 提。と。さ。う。く。結。ぶ。ま。と。そ。下。知。せ。く。結。り。ま。す。也。圓。の

一く、是し、凡、母、又、禪、門、よ、り、の、腹、の、ま、ま、
 け、俗、道、と、亦、さ、り、と、上、て、ゆ、り、つ、ま、ど、も、海、と
 ハ、ま、れ、事、作、り、び、お、し、ち、げ、か、く、彼、と、う、え、ん、と、で、
 た、り、ま、ま、と、ゆ、り、つ、つ、終、さ、ま、い、と、し、作、つ、道、ま、ま、
 久、ん、の、熱、毒、は、り、ん、事、ハ、あ、ま、い、く、作、ゆ、り、ま、ま、
 終、さ、ま、い、と、ゆ、り、つ、つ、な、ま、ま、し、の、ま、ま、ま、ま、
 と、く、居、る、ま、ま、ま、ま、と、な、り、の、ま、ま、ま、ま、ハ、ハ、ハ、ハ、
 ち、ま、ま、ま、ま、と、し、ま、ま、ま、ま、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、
 月、母、ハ、ま、ま、ま、ま、と、し、禪、門、ハ、ま、ま、ま、ま、
 亦、さ、り、と、し、ハ、ま、ま、ま、ま、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、
 ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、
 感、して、別、の、所、領、と、ま、ま、と、し、終、り、り、と、し、ハ、ハ、
 者、ハ、思、つ、ま、ま、ま、ま、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、
 亡、目、の、母、と、養、事、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、

南、邦、ハ、春、桑、房、ハ、上、人、東、大、寺、ハ、大、佛、殿、造、立、ハ、
 一、字、藝、同、防、五、回、の、山、ま、ま、と、し、松、作、や、ま、ま、
 食物、の、儀、お、ひ、く、う、ら、ん、と、し、ま、ま、ま、ま、
 た、り、と、し、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、
 め、ま、ま、ま、ま、と、し、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、
 たり、者、ハ、ま、ま、ま、ま、と、し、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、
 ぞ、ま、ま、ま、ま、と、し、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、

此の一人作と。薪を取て。と。は。う。た。う。の。置。か。お。く。て。
身。を。つ。つ。さ。か。し。つ。さ。
て。ん。ん。く。く。く。く。心。を。と。く。と。く。は。か。ら。い。ふ。
ら。の。こ。こ。此。松。の。食。ひ。多。く。作。佛。事。を。ま。さ。げ。は。い。ふ。
う。け。ど。此。の。作。事。を。あ。ら。う。と。思。ひ。く。か。方。が。ま。ま。
て。母。と。な。ま。の。い。ふ。や。と。思。ふ。さ。う。さ。う。ま。ま。か。は。不。當。
を。仕。く。さ。ら。し。と。う。し。作。て。ま。ん。業。ま。ま。と。い。は。
う。う。ま。う。う。く。口。情。く。ま。く。は。ま。ま。と。さ。あ。く。
と。な。さ。ひ。も。こ。を。上。人。を。事。し。こ。細。わ。れ。は。思。え。ん。
ひ。も。こ。と。も。實。否。と。あ。ら。ん。た。め。に。此。の。い。は。し。め。

た。う。は。お。は。ら。う。う。う。う。使。為。り。て。見。け。こ。こ。山。の。
ゆ。り。と。母。ち。の。さ。さ。さ。つ。り。の。り。人。を。と。あ。ま。り。ま。
と。れ。を。ま。う。り。て。何。か。う。人。が。と。ま。た。肉。り。答。を。は。か。
し。び。の。こ。音。目。の。こ。ゆ。う。が。と。ま。ま。ま。び。て。此。山。の。
と。い。は。し。と。て。薪。を。取。て。置。ま。お。く。と。う。む。子。息。
の。言。い。れ。作。と。た。の。ま。ま。出。ん。ま。ま。に。此。由。の。
命。と。ま。ま。は。ま。ま。と。ゆ。り。此。童。子。の。ゆ。り。
ゆ。り。お。つ。つ。あ。く。心。と。な。り。て。人。れ。た。く。あ。ま。
此。童。子。も。と。思。ひ。こ。を。あ。ら。う。人。ま。ま。と。い。は。使。
を。あ。ら。う。と。ば。人。ま。此。の。う。り。ま。ま。童。子。と。ま。た。

かゝるりたるまゝして。我母思つれども母と養ひ給
 の食物さびてけり。さて佛物なればぐづり
 わづらんともおそき事有る。拙作人間。畜養とハ
 けつられり。志まざるに不當なれ。何れも是も。孝
 養の心ハ實にけり。わづれども。物さるるニ實の
 佛物とす。母と母と。あはれども。食物母あはれ
 られども。母も不思。我母をけり。孝養の
 心。さるる。と何のゆへ。眞の心。我れと何りけり。

一 白河院の時。天下に殺生禁断せしむ。と
 自り。と。此者何まはれり。と。さるる。と。何りけり。
 一。或山寺法師。母の年。さるる。と。世間。さるる。と。物

と。さるる。と。何りけり。魚など。さるる。と。物さるる
 とも者。と。何りけり。世間。さるる。と。事なまは
 いら。と。さるる。と。さるる。と。母の命を
 たりん事。と。何りけり。と。心。ゆ。と。さるる。
 加。衣。さるる。と。さるる。と。桂川。と。さるる。
 多。り。と。魚。と。さるる。と。と。事。と。さるる。と。さ
 少。り。と。けり。と。言。人。に。と。さるる。と。さるる。
 と。院。の。也。と。具。と。と。海。の。り。と。さるる。と。天下。に。殺。生。禁。断。
 断。其。と。これ。と。上。法。師。の。身。と。と。加。衣。衣。と。さるる。
 か。と。此。惡。行。と。と。と。事。と。と。不思。殺。を。り。と。せ。
 か。り。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。此。僧。と。と。と。

老母が命をたどけて。老々々々をやりし作し思
 ひく。我身はいつなりと。たに作となりぬ。母が命。
 か。ものびん事。本まよふ。作此魚。今。作て。
 一口と物らひて。候らん。と。あ。終り。く。い。お。り。所。い。
 海。め。の。も。あ。ら。り。作。ら。り。と。あ。ま。あ。ら。り。海。を。
 くら事也。う。く。く。と。作。ま。ら。り。と。奏。して。海。を。な。
 ぐ。い。ま。い。事。れ。終。り。れ。よ。あ。り。め。で。母。を。や。
 一。あ。し。終。り。物。不。足。なく。終。り。て。ゆ。り。ま。せ。り。ら。り。
 至。孝。心。也。一。實。何。り。を。作。り。て。了。す。

賣母と養食事

去。支。永。年。中。災。早。日。久。く。て。國。之。飢。饉。ひ。び。く。
 しく。あ。り。中。も。も。濃。尾。張。に。餓。死。也。
 夫。お。ゆ。他。國。へ。ぞ。ら。ゆ。さ。ら。海。美。濃。乃。國。り。貧。
 して。母子。有。ら。り。あ。ら。り。た。ら。り。な。さ。上。う。作。せ。り。何。
 ひ。く。え。り。あ。ら。り。作。せ。だ。ら。ま。ら。母。心。う。さ。り。を。
 さん。り。り。身。を。賣。て。母。を。助。ら。ん。と。思。ひ。く。母。い。け。
 座。う。と。云。ひ。ま。た。只。一。人。り。ら。り。子。な。り。な。海。上。者。
 養。食。の。心。ぞ。一。何。り。の。心。を。ん。作。ま。ん。事。り。あ。り。を。
 ぞ。て。死。と。も。同。所。一。と。年。と。も。ろ。く。て。あ。り。頭。
 とも。な。り。く。そ。死。か。あ。り。か。と。も。あ。り。ま。り。さ。世。
 ぬ。い。さ。か。う。く。く。あ。ま。ん。も。口。行。く。さ。り。あ。り。と。て。

母を産むゆりきつる里なれども。一いつらなりと
うづらめりりあよともしなりかんと。くらと他一
うーあん事をも。ぶんがきくきつて母をく
割一なれども。身と妻て。うりと母にたてて。あ
くすねて。あつたれ方をゆきさなれ。三河國矢作
乃宿に。ゆひきりくつる者。猪一の商人のあま
具して。りりなれ中よ。わつさ男れ。人目もつて。ま
い。おとたそ。な。く。なり。な。り。人。あ。や。い。て。ゆ。ゆ
みう。も。ほ。ご。や。ひ。な。れ。た。義。彦。の。國。入。り。の。て
ゆりが。母。と。た。も。ん。が。た。の。た。身。と。う。ま。て。い。ゆ。き
う。ゆ。り。一。い。な。り。く。ゆ。つ。ま。の。う。ま。り。ゆ。り。あり。

母れなすのりにも。ゆき事とあ。い。て。が。え。ご。れ
候。ゆ。り。が。目。と。う。き。て。し。も。思。ひ。あ。ら。ぬ。ゆ。り。の。命。あ。つ。が
め。り。り。あ。ら。事。も。有。あ。んと。う。い。ん。と。う。ま。つ。ま。ご。き。も
又。あ。つ。た。ひ。ん。た。れ。あ。ら。な。れ。と。い。て。あ。つ。た。れ。た。く。乃。の
眞。那。の。ま。を。め。う。さ。と。う。い。ゆ。き。う。た。べ。の。音。あり。
ゆりこの家とて。又母とて。ゆりて。や。あ。あ。ん
と。く。と。き。た。そ。な。れ。ゆ。き。か。ん。き。く。人。ま。ご。き。を。ま
わ。つ。た。い。か。り。ゆ。り。り。至。者。の。ん。ご。い。や。ゆ。り。首
ら。ど。有。き。つ。て。き。つ。て。ゆ。り。も。あ。ら。ゆ。り

新徳

一母れ生るを知事

俗陽に負一と母と。びとあや有たり。若うに

よびて。縁えんに對て。越後えちごの國へ下て。ぞ世をわらわらる。
生なまま付つく。果報ぐわんなる道みちが。つくりとく。と貪まごあつて
そとを。うらた。氣きれりの。しとく。念ねん仏ぶつ者しやれ。わら。し。の。よ。
此こゝむ。と。あ。あ。ひ。か。く。し。ひ。て。住すま。り。が。餘あまり。よ。心こゝろや。は。く。
ぬ。世間よこと。と。て。此こゝ念ねん佛ぶつ者しや。う。の。う。は。く。心こゝろを。う。く。て。
と。ま。ん。う。り。ハ。那なよ。て。ハ。そ。て。も。あ。く。て。も。と。れ。あ。ん。
ろ。く。衆しゆ人じんを。さ。さ。ひ。な。れ。此こゝむ。と。あ。母ははれ。ん。ま。ま。ん。よ。
と。か。け。う。き。り。ら。お。ざ。り。な。わ。も。度たく。う。う。く。
め。て。だ。そ。ハ。母ははれ。尼に云いま。く。て。心こゝろを。う。く。た。い。せ。ん。
う。り。ハ。教しやうと。そ。ハ。さ。ん。が。後ごな。も。て。ゆ。き。道みちを。と。
乃すなは事ことハ。何なにと。思おもひ。て。女によ房ぼうと。具ぐと。上かみと。上かみと。

し。と。ん。の。ま。も。ん。事ことと。な。り。ま。て。り。ら。る。後ごに。
し。う。よ。時とき母はは。う。う。れ。ハ。娘むすめ貪まごく。と。も。何なにひ。ま。ひ。
て。し。も。ゆ。り。へ。け。ま。さ。り。お。う。く。ひ。と。ま。く。と。心こゝろや。を。
く。く。も。ち。り。し。け。れ。ハ。上かみより。後ごと。の。よ。む。と。あ。
ハ。あ。り。ち。ら。お。ざ。り。な。る。な。れ。さ。海うみの。も。は。お。ま。ん。
を。お。う。く。と。道みちな。も。ま。か。け。お。中なかつれ。と。海うみの。あ。く。と。
め。け。さ。な。も。ま。た。共ともに。心こゝろを。う。く。と。ま。く。と。ま。ん。よ。
つ。の。上かみより。後ごと。を。あ。ま。さ。り。と。ま。て。教しやうも。も。心こゝろや。
と。く。れ。ハ。母ははれ。ん。と。思おもひ。て。心こゝろを。も。ち。や。く。と。ま。む。と。あ。
と。何なにれ。ん。よ。は。な。く。く。の。孝かう養やうの。ま。く。と。ま。何なにと。し。て。
よ。う。と。ま。う。と。あ。ま。づ。ら。め。つ。ひ。け。ま。た。く。と。ま。く。と。あ。

三三三

ふーとさうう。あひ奥せし終て。むと女上りおど
系してあひもさけりやうに。お中ノ事。因れま
つもさかろりけさむ。たぐひよとつあ事ま
— 物言の母れ事—とてぞなれたは。さう母まよ
清水寺よまき。母なる。世に有とさかくね色。
志の—終と行り—たり。日教取りて。感^{えん}度^どむ
— ね— 善よつあ終ひたり。なんぢが母に別て
後^{うしろ}はまらあささう事と終— 殺に。病付てく
かくあて。白にさ。病は志人のなご—と云者
りよ。栗毛^{くりげ}駿^{うま}たう。駄^だ母^ぼ生れて。當時系にわりの宿
下はあつて。れあ。あささうに志の— 終。後まわて

やがて彼宿をたぐひ終。是はわつたりの人れ終と
とれを問へ。病は系れ人の宿と云。さう栗毛^{くりげ}駿^{うま}
の西馬や作と問へ。まと答へいさ。さうバおささ
とてやと云に。あつたや—とて。事れ子終と云。
女人—と終。いさあささ。母れ事と。清水よいの事
—とて。終示現と云。ひりりりり。なごく。終り
いさむ。あつた。ま。さ。その馬とたぐあうり。
昨日^{きのう}鎌倉へ下りりり。—と人—の別^{わか}の事と
終り。て。彼馬をわて。さ。して。つさ。使と上
りり。江州乃。四十九院と云宿。とて。ひ付て。わて
海り。あつた。は馬にまにや。と。其。栗^{くり}死^しりり。終り

あまゆい〜く〜して。びあ〜く〜ゆりよ〜んも。あ
まゆい〜もた〜りりり。馬の〜びと切〜。りら〜
よゆ。じ〜あ〜馬れ〜の相〜んと。移〜ん〜。よ〜用〜
〜して。目〜を〜て。ゆら〜る〜程に。び〜く〜願〜
〜と。お〜と〜より〜。此〜を〜て。彼〜女〜馬れ〜び〜。種
〜を〜ら〜わ〜ひ〜て。〜も〜れ〜。ま〜び〜た〜ら〜さ〜あ〜び〜
〜ら〜り〜の〜。〜を〜ん〜さ〜ん〜人〜を〜れ〜たり〜も〜あ〜ゆ〜
〜計〜なり。〜て。此〜馬〜の〜人〜を。種〜に〜け〜え〜ゆ〜り〜
〜ら〜と〜つ〜。種〜の〜者〜養〜と〜ぞ〜。〜人〜の〜親〜れ〜子〜
〜ら〜。癡〜愛〜の〜因縁〜に〜り〜て。お〜ゆ〜れ〜惡道〜は〜わ〜ら〜て
〜苦〜と〜ら〜ゆ〜と。神〜通〜あ〜た〜れ〜い〜。〜と〜ま〜は〜事〜。〜

あ〜ら〜も〜。先世の〜惡〜知識〜と〜。或〜ハ〜殺〜。〜
〜な〜ま〜れ〜。〜海〜め〜や〜い〜と〜ら〜り〜な〜も〜。此〜女〜人〜ハ〜者〜養〜
〜れ〜心〜さ〜。〜あ〜ら〜。〜て。佛〜は〜わ〜り〜て。先世の〜親〜の〜事〜と
〜あ〜ら〜。人〜と〜い〜。生〜と〜ら〜ゆ〜。〜び〜母〜父〜母〜あり。惡〜所〜
〜何〜も〜と〜も。生〜と〜ら〜ゆ〜。〜い〜う〜な〜ゆ〜ら〜ら〜と〜あり。〜
〜わ〜ら〜。〜し〜ら〜ひ〜と〜。う〜ら〜ら〜と〜あ〜ら〜ぬ〜の〜。〜を〜ゆ〜ら〜め〜。
〜梵網經〜。〜一切の男子ハ。〜我父。一切の女人ハ。〜我母。
〜我生〜く〜に〜。〜母〜隨〜て。生〜と〜ら〜ゆ〜と〜い〜。〜事〜あり。
〜何〜が〜ゆ〜。〜六道の〜生〜ハ。皆是〜我父母也。〜を〜殺〜と
〜食〜と〜ゆ〜ハ。〜我父母を殺〜。〜食〜と〜殺〜と〜い〜。〜ら〜ら〜ら〜
〜唐の國法寺に拾得〜と〜い〜。〜。〜豐干禪師の〜者〜

情ありて。うづつ。こと。此事ありあり。や。あつ
 公卿の西面に。此事あり。一。そ。相平と。さ。免
 られ。依に。色。も。あ。ひ。ひ。も。さ。う。れ。さ。り。も
 なる。て。ま。う。一。侍れ。交。つ。さ。り。び。ま。れ。出。相
 年。再。取。り。め。是。も。不。運。れ。い。う。り。も。身。も
 思。ひ。よ。も。あ。も。さ。こ。一。う。り。こ。の。一。も。あ。さ。た
 ひ。く。世。と。も。う。り。ら。れ。貪。一。さ。女。人。と。年。來。相
 こ。う。ひ。と。も。さ。り。の。が。妻。は。裕。り。一。う。り。の。御。さ
 こ。契。う。て。年。來。た。づ。ひ。に。心。さ。う。一。あ。さ。う。一。ひ。一
 て。も。さ。う。も。は。お。さ。り。あ。ん。道。も。も。た。れ。さ。義
 と。一。し。し。と。思。ひ。の。り。え。事。出。ま。れ。た。

出家の道一で。因。と。も。修。行。せ。は。中。と。思。ひ。ま。さ。り
 相。そ。う。ん。事。も。今。取。う。り。と。思。ふ。よ。名。残。れ。わ。り
 さ。し。も。心。め。あ。あ。か。さ。も。い。も。ま。ひ。一。と。さ。め。く。と
 位。り。ま。も。妻。何。事。ま。う。り。て。か。心。れ。出。ま。り。の
 道。心。れ。わ。り。後。の。は。し。と。さ。ひ。道。心。再。の。あ。ん。ひ。の。中
 中。世。間。に。さ。こと。は。出。事。一。あ。る。一。そ。て。相。平
 を。孔。子。に。取。つ。ら。ん。人。と。あ。か。う。ら。ん。上。れ。御。相。平
 一。と。取。あ。り。て。耻。と。う。さ。な。ん。と。信。官。あ
 ら。お。れ。い。う。ま。う。と。い。う。ま。う。と。い。う。と。さ。う。一
 か。ん。事。も。か。さ。被。あ。つ。事。一。う。り。く。い。と。あ
 ま。ん。さ。ひ。も。さ。の。ち。う。う。な。り。只。あ。と。と。う。う。

して此に於て母道心なくとも山寺とて修
 行一も。ちやうち海一と事とのまじりと思ふ
 づりなりとの。此妻一づりの其事一なるは
 何一母なほさ終らん人の果報と。さういふと心
 こそあま。たらし。此おに世とつとまじりと思ひん母
 付てと。そそに浄相平にありぬ為常たりの法
 引出物と。と進てこそ。西下中と。と進出終りぬ。そ世
 の發阿も。たらし。妻男と。とたかりて。今日まて心持
 うらび。て。まじり。修。の。常。を。回。く。さ。う。
 まじり。て。母。了。そ。ま。じ。り。の。め。此。家。地。た。ん。ど。何。ま。じ。り。
 一。ち。入。て。い。し。か。り。と。終。へ。し。の。ま。じ。り。ま。じ。り。の。果。報。

つとて。今。ま。て。母。を。か。り。や。う。存。を。思。出。も
 かりて。年来。日。来。ま。じ。り。つ。終。だ。も。心。を。守。り。く
 ぬ。こ。と。う。つ。つ。こ。に。我。故。を。進。え。ぬ。ど。ひ。終。らん。ま
 じ。り。口。緒。た。り。と。ま。じ。り。何。ま。じ。り。の。思。ひ。終。らん。ま。の
 此。お。て。母。共。に。尼。法。師。め。と。な。り。て。後。世。菩。提。
 の。勤。也。バ。善。知。識。と。し。を。思。ひ。し。を。悔。つ。め。お。れ
 何。の。あり。げ。ひ。と。た。り。と。世。間。の。悔。う。ま。し。と。お。れ
 こそ。ま。じ。り。と。何。と。い。ふ。と。ま。じ。り。を。心。づ。り。れ。色。識。一。何。ま
 じ。り。ひ。み。と。ま。じ。り。上。ま。じ。り。と。ま。じ。り。女。房。の。ま。じ。り
 ひ。み。た。つ。ん。と。ま。じ。り。屋。地。と。ま。じ。り。用。途。六。十。貫。
 う。何。ど。あり。ま。じ。り。と。ま。じ。り。の。料。安。ま。じ。り。金。れ。掃。と。つ

海老六 一

くく色く。こくく。かめやう。きよく。ん懐
中。一。平に多くの引出物。き。う。う。其ハ
上。此。相。半。母。参。つ。き。其。用。意。あ。つ。く。や。傍。官。去
向。々。積。い。い。や。の。引。出。物。上。よ。も。と。い。う。こ。と。う。
事。一。う。あ。か。し。と。さ。と。目。ひ。さ。鼻。引。か。と。そ。あ
て。を。ね。く。け。に。思。ひ。つ。れ。上。よ。も。と。い。う。こ。と。う。
こ。こ。事。に。お。け。し。や。う。る。気。色。な。り。々。り。せ。
母。と。う。ら。り。紙。一。裏。う。る。ま。の。と。り。あ。と。と。て。
さ。せ。事。一。う。と。思。ひ。て。あ。ま。り。の。か。さ。さ。い
た。さ。ん。然。人。面。と。う。が。さ。り。さ。そ。西。前。に。並。う。る。物
と。び。さ。ひ。り。び。さ。ん。後。へ。銀。の。り。あ。ま。金。の。ら。花
と。至。う。り。心。と。及。び。は。く。つ。う。り。々。り。是。と。と。皆
目。と。お。し。う。一。然。人。ま。が。り。て。そ。ん。り。の。採。何。と
して。西。前。と。な。れ。母。か。く。れ。不。思。紙。い。志。前。う。る。ぞ
と。西。前。中。の。人。一。た。が。の。活。ひ。り。ま。が。け。子。母。と。を
う。も。活。り。活。と。う。く。う。う。人。一。の。ま。と。大。よ
感。ト。修。し。き。う。り。さ。は。や。ど。母。を。り。引。出。物。と。て。
紙。一。枚。と。ぞ。活。り。々。り。教。道。さ。庄。乃。十。石。む。う。り
た。う。と。活。り。り。て。富。業。て。い。ま。く。も。あ。り。ま。う。り。
う。さ。ひ。て。市。鎮。と。あ。つ。り。音。々。業。花。目。を。く。ま
り。活。業。乃。う。る。ぎ。一。と。あ。り。か。く。く。活。と。と。紙。を
人。の。食。く。と。心。と。い。ふ。紙。さ。び。と。う。ら。も。あ。り。患。と

海老六 一

とつては、つご事也

師の禮あふ事

壽福寺に故莊嚴房の法中ハ、まろくすくすく上人
あり。鑑倉の大長老、此歸依ありて、師の
禮とあふ、法中慈悲ゆゑ、人々所記
人の歎き、御んくひ、と、
りり。彼、さうさ、と、事、さ、さ、さ、さ、さ、
と、く、と、な、ひ、り、り、と、そ、り、ま、れ、
常、母、さ、り、と、ま、り、と、世、間、の、
一人ハ、た、り、事、也、今、ハ、所、の、
下、し、ぬ、い、ぬ、い、ぬ、い、ぬ、い、ぬ、
と、口、入、り、と、い、ひ、と、い、ひ、と、い、ひ、

作、ぬ、と、さ、り、と、い、ひ、と、い、ひ、と、い、ひ、
く、と、さ、り、と、い、ひ、と、い、ひ、と、い、ひ、
母、大、なる、事、ハ、い、ひ、と、い、ひ、と、い、ひ、
作、し、の、事、ハ、い、ひ、と、い、ひ、と、い、ひ、
と、い、ひ、と、い、ひ、と、い、ひ、と、い、ひ、
と、い、ひ、と、い、ひ、と、い、ひ、と、い、ひ、
後、善、信、な、く、て、七、十、余、日、
後、ま、り、と、い、ひ、と、い、ひ、と、い、ひ、
門、と、い、ひ、と、い、ひ、と、い、ひ、

法中可レろレとしてレ入レてレまレうレ。大長殿はおななく
法下乃是とりてレ。乃戴してレなくレくレ修めき
けれハ師了も。身子としてレ勤ん南んとしてレ事しりて
修らにレ内弟子らりて。勤南一たてまうらうらうら寤ひ
障いんて懺え悔い一として。一ら事とたく一とて
百日がレややハ一らも活りつとトと思はつまとしてレ也
びひてレ奉まうらうらとしてレとらくととレ法をひいきを法
亦も思つひみまきてレ。法とながりて一しえれらうハ
内勤當ふむらとしてレ。又内ゆるり一作とし
とう修へんとりも一そとしてレ。んらくに内物修めるとてレ也
くり修めらる也。此事ハ。彼寺ハ老僧とりり修めらる也。

大長殿母宮体下一らら古く人のかりり一とレ佛
後母りこうめなりら俗のとくとらもと装束もてつの
母責こ僧の心とハ懺悔一法もどやの修めとしりん
一してレおどろとしてレ。亦もづり母をんこ寺へ入りわら
りれとも。うも活りり一としりこ。信心のままにレ
れり一けまら。若宮れ出つもや。師資の禮儀をレ
おし修めひまれも。何れがくとくとく修める也。浴湯
母。猫間の隨筆房れ上へとしてレ。一度宋一とく。
徑山の佛法とうやひ達磨れ宗風としてレ。たく
こ禪師をりり。故法性寺の光明峯寺禪定殿
下りてレ。法門也たらしりらる也。一がりとららりら

ともどもあつて一にえたり。世傳師とかりてくまも
 多敷し。本寺か山の。その時れ碩徳よ召合てけ
 て。禪教の法門回答ありけり。教門の碩学も口
 とらら。あつて。其宗の人は。法門とやめく。教家も
 法門のよく。真義とよきまかり。又密宗の明匠も
 同答ありけり。と。上人の難勢と。一のづいけり
 となし。と。て。顯密共よ。其旨とすく。達せり。と
 やめく。世の同。世傳師も。なり。そまら。んとか
 一のづいけり。けり。げゆ。也。あつて。と。か。く。辭
 一。ま。も。の。後。一。實。名。り。や。け
 ても。が。朝。代。禪。門。の。繁。昌。是。り。り。と。お。し。ま。り。と。よ
 も。法。と。信。せん。也。先。弘。通。乃。人。と。け。り。と。よ。め。あり
 正像末凡。三時。の。つ。と。と。り。所。在。世。少。佛。と。な。と
 一。く。法。と。僧。と。い。佛。よ。う。れ。滅。後。正。法。の。時。と。
 法。の。面。う。り。也。佛。と。僧。と。い。威。徳。あり。也。像。末。凡。及。佛
 と。法。と。い。ま。つ。る。威。徳。あり。也。僧。の。弘。通。よ。り。也。
 佛。法。の。利。益。あり。也。仍。末。代。いた。と。ひ。破。戒。無。慚。也
 也。正。知。正。見。に。け。り。佛。法。を。南。演。せ。て。個。人。師。と。り。
 あり。世。に。福。田。と。り。其。り。十。稀。經。心。地。觀。淨。と
 あり。け。り。僧。の。弘。通。と。い。は。る。ま。り。て。佛。の。威。も。法。の
 あり。も。あり。け。り。と。ま。り。佛。法。と。信。せん。と。い。は。り。

ともどもあつて一にえたり。世傳師とかりてくまも
 多敷し。本寺か山の。その時れ碩徳よ召合てけ
 て。禪教の法門回答ありけり。教門の碩学も口
 とらら。あつて。其宗の人は。法門とやめく。教家も
 法門のよく。真義とよきまかり。又密宗の明匠も
 同答ありけり。と。上人の難勢と。一のづいけり
 となし。と。て。顯密共よ。其旨とすく。達せり。と
 やめく。世の同。世傳師も。なり。そまら。んとか
 一のづいけり。けり。げゆ。也。あつて。と。か。く。辭
 一。ま。も。の。後。一。實。名。り。や。け
 ても。が。朝。代。禪。門。の。繁。昌。是。り。り。と。お。し。ま。り。と。よ
 も。法。と。信。せん。也。先。弘。通。乃。人。と。け。り。と。よ。め。あり
 正像末凡。三時。の。つ。と。と。り。所。在。世。少。佛。と。な。と
 一。く。法。と。僧。と。い。佛。よ。う。れ。滅。後。正。法。の。時。と。
 法。の。面。う。り。也。佛。と。僧。と。い。威。徳。あり。也。像。末。凡。及。佛
 と。法。と。い。ま。つ。る。威。徳。あり。也。僧。の。弘。通。よ。り。也。
 佛。法。の。利。益。あり。也。仍。末。代。いた。と。ひ。破。戒。無。慚。也
 也。正。知。正。見。に。け。り。佛。法。を。南。演。せ。て。個。人。師。と。り。
 あり。世。に。福。田。と。り。其。り。十。稀。經。心。地。觀。淨。と
 あり。け。り。僧。の。弘。通。と。い。は。る。ま。り。て。佛。の。威。も。法。の
 あり。も。あり。け。り。と。ま。り。佛。法。と。信。せん。と。い。は。り。

弘通乃人として之。相と取て之。失と力て
 う。じれ事なるは。智徳の失はば。袋の
 空き。はつて。金と。袋のくさ。は。い。る。ま。く
 して。僧ハ破戒なりとも。統く不
 の法。眞實を。は。信して。人ハ失と。た。ぐ。さ。ま。ま
 と。つ。り。過。去。一。佛。世。に。出。給。つ。び。て。佛。法。ハ。若
 字。と。さ。う。さ。り。多。れ。時。宿。命。智。有。り。て。さ。う。り。悔。り
 野。子。に。ま。る。ら。ん。師。子。に。か。つ。て。ま。け。ら。し。り。多。れ
 ぬ。う。さ。あ。き。な。て。つ。つ。さ。力。な。う。て。教。目。と
 つ。思。ひ。つ。つ。い。つ。つ。に。も。て。多。れ。命。と。同。く
 師。子。は。あ。ま。な。り。多。れ。と。慈悲。と。な。く。して。

りつ。あ。や。う。の。師。と。行。く。ま。他。の。り。く。さ。あ。ま
 と。布。一。カ。く。南。無。三。世。諸。佛。此。心。を。照。し。給。ふ
 と。つ。ひ。つ。つ。音。切。利。天。へ。の。り。も。て。帝。釈。印。と
 ろ。さ。て。下。と。つ。つ。て。妻。教。の。徳。天。と。共。下。り
 て。見。給。ひ。け。も。あ。ま。中。の。野。子。の。聲。な。り。と
 て。さ。海。く。の。事。と。も。つ。つ。つ。つ。の。法。法
 と。り。と。帝。釈。結。し。給。ふ。野。子。に。い。つ。三。十。三
 天。の。ま。ま。小。禮。儀。な。り。軌。則。と。あり。給。ふ。の。の
 ぶ。法。水。の。上。に。を。な。り。と。師。ハ。下。に。弟子。の。上。に
 して。い。つ。法。と。つ。つ。つ。帝。釈。と。ら。と。ま
 して。天。衣。と。つ。つ。つ。つ。の。聲。と。ま。う。り。て。その。上

此の法と云ふこと。天中の益と云ふこと。天帝野干と云ふまゝいふ師と云ふまゝの足跡ひきつらり。直代に在家のこともなく。佛法と信じてありのむけも。僧と云ふやれゆの希なり。出家又法のこころ。お振舞。釈門の係とぬまの希なきこと。在家と云ふまゝ佛法と云ふこと。利養とれり。一むつらぬ。何と云ふ経の中に。白衣の産けりて。出家の地り立て。法を説く。法減の相と云ふゆゑあつて。心よくこそ是の世終る。道俗共に此係とぬま。佛法久住の因縁と云ふこと。佛法の利益大なる事と信じて。じ

これ大王千歳に給仕と云ふこと。妙法と云ふ雪山の大士。半偈のまゝに。身命と云ふこと。一文一句も生死と出菩提と云ふ。因縁有。佛法の妙なる事。信じて信じて。その心に。此道理と云ふこと。なる者也。

沙石集卷第六下終

神護寺

迎梅院

六百六

ト

六二

永仁第三之曆札孟夏後七日

於西山

大原野書寫了

片山眞士道慧

乾元二曆癸卯季春之候此書道證上人奉渡畢

道慧